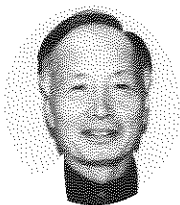


第3章
専門部の歩み

第1節 総務本部の10年



総務本部運営の推移

総務本部長 江 連 隆 夫

長野オリンピック（1998年）を期に下降線をたどるスキー界、歯止めはかかるのか？本連盟では運営の財源となる2000年度SAJ会員2,587名、指導員1,055名、所属団体25クラブ、賛助会員41社、広告主62社が、2010年度ではSAJ会員1,971名、指導員998名、所属団体24クラブ、賛助会員32社、広告主30社と減少傾向です。

予算面では、収入額2000年度約3,400万円が2010年度約2,800万円、支出額2000年度約3,250万円が2010年度2,700万円と減少しています。

創立70周年を期にホームページが開設され、2010シーズン前に全面リニューアルいたしました。ホームページ運営委員会が主体となり今後も利用しやすいホームページ作りを目指します。

総務本部は年間を通じ業務処理を行っており、事務員は9月～4月（月～金）まで常駐し、5月～8月は火・金に出勤し、他は専門部選出の事務局員で業務を遂行しています。

シーズンオフの5月からは常任理事会、理事会、評議員会、2年毎の役員改選、規約等審議委員会等の会議資料作成、会議開催通知に追われる。8月に入るとSAJ会員登録・公認資格者登録の所属団体への送付、スキー年鑑の編集会議、9月末決算に向けて年度内支出の精査、各専門部の予算要求による新年度予算編成、特別会計の管理と旧年度の整理と新年度の準備が重なる。特に9月中旬以降は所属団体から届くSAJ会員登録、公認資格者登録の整理、全日本への送付、県選手管理登録の受付・整理、各種大会の申込み受付、研修会・講習会等の申込み受付等があり、シーズン中も各種大会・研修会等受付、資金管理と多忙な日が続きます。

補助金関係では北関東ブロック・県体育協会へ強化費、国民体育大会補助金の申請と多忙な日々が続きます。

今後は事務の効率化を目指し所属団体への連絡方法として、所属団体事務担当者のメールアドレスの登録を行い、日中連絡が取れない場合での活用に関心を持たせたい。

ネットバンキングを活用し出来るだけ現金の持ち歩きは行わない、大会関係の申し込みはデジエントリーの検討する必要があります。

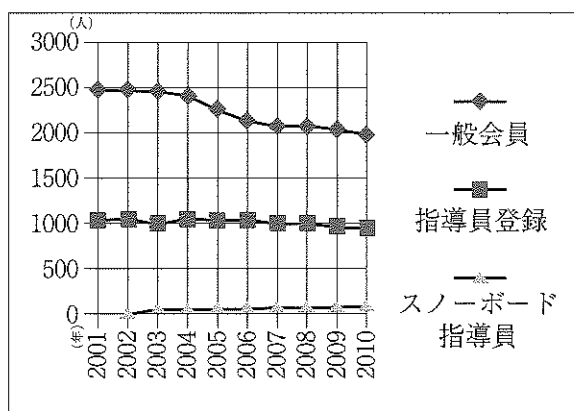
又、近年宇都宮中心部は交通取締りが厳しく、駐車場の無い県連事務所では所属団体が立ち寄ることも出来ないのが現状です。今後の課題としてインターチェンジ近くへ移転し所属団体が立ち寄りやすく、20名程度の会議が出来る事務所作りが必要で、さっそく新事務所開設に取り組んでいます。



会員登録の推移

総務本部理事 小野崎 俊行

(年)	一般会員 (人)	指導員 登録 (人)	スノーボード 指導員 (人)
2001	2492	1050	
2002	2484	1067	19
2003	2460	1018	45
2004	2402	1061	51
2005	2272	1041	66
2006	2165	1024	71
2007	2093	1006	82
2008	2093	1006	79
2009	2049	975	80
2010	1990	968	84



2000年度2587名の一般登録会員がいましたが、2010年度には1990名と597名も減少してしまいました。ピークは1992年度の2769名でした。会員減少の背景には、若者のウィンタースポーツに対する多様化、ニーズのちがいが、少子高齢化、景気低迷による就職難で経済的に困窮するなどがあげられます。その結果、今の若い人たちの中にブランド物に興味がない、車を持たない人が多く見られます。スキー場へ移動するのに車を必要としますので、このあたりも懸念されるところです。

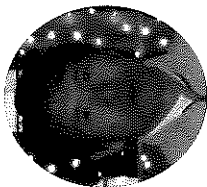
指導員関係をみますと、級別テスト受検生の減少により準指導員受検生も30名前後に減ってきています、又高齢化などで資格を返上する方も10名前後います。ボード関係をみますと指導員（準指導員含む）の人数がすこしずつ増えてきているのが明るい材料かと思います。今年度から新しくスタートした認定スキー指導員制度で、17名の認定指導員が誕生しました。このようにいろいろなアイデアを出し合ってスキーヤーの掘り起こしが必要です。

競技関係をみますと公認セッター（A、B）とも13～15名、公認パトロールは38～40名で推移しています。各クラブ全員の参画のもと80周年～90周年に向かってスキー界発展のため取組みましょう。

予算の推移 10年の記録

総務本部理事 小原澤 善 勝

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
収入の部											
負担金	1,879,000	1,866,000	1,883,000	1,936,000	1,946,000	1,865,000	1,835,000	1,823,000	1,822,000	1,822,000	1,823,000
事業収入	15,011,000	14,504,000	16,094,000	14,015,000	10,793,000	10,270,000	10,641,000	10,958,000	10,541,000	11,233,000	11,510,000
登録料	7,907,000	8,657,000	8,515,000	8,837,000	8,484,000	8,293,000	7,904,000	7,762,000	7,253,000	7,066,500	7,090,500
公認料	810,000	780,000	898,000	833,000	872,000	735,000	785,000	625,000	505,000	505,000	500,000
寄付金	1,120,000	1,078,000	1,050,000	1,140,000	570,000	770,000	625,000	570,000	515,000	515,000	610,000
補助金	4,384,000	4,583,000	4,720,000	6,389,000	4,264,000	3,661,000	2,950,000	4,088,000	3,810,000	3,580,000	3,737,000
雑収入	1,306,034	1,202,699	1,587,546	1,361,301	1,335,821	1,421,808	1,292,704	1,141,050	1,027,500	912,500	912,500
繰入金		1,000,000									
繰越金	1,212,966	2,154,271	1,523,454	1,088,699	1,335,179	1,828,192	1,407,296	1,404,581	288,349	1,700,986	2,076,046
合計	33,630,000	34,810,000	36,271,000	35,600,000	29,600,000	28,844,000	27,440,000	28,371,631	25,761,849	27,334,986	28,259,046
支出の部											
負担金	867,200	870,000	870,000	876,000	743,000	746,000	699,000	699,000	698,800	718,500	898,500
事業費	20,972,000	22,037,000	21,069,000	20,921,000	15,591,000	15,257,000	14,561,000	15,353,000	13,663,490	14,232,700	14,649,000
登録料	4,646,000	5,388,000	5,375,000	5,391,000	5,184,000	5,038,000	4,950,000	4,585,000	4,472,900	4,412,300	4,398,500
公認料	610,000	560,000	655,000	601,000	669,000	557,000	597,000	557,000	380,500	378,500	355,000
事務費	4,710,000	4,614,000	5,570,000	5,318,000	5,037,000	5,373,000	4,953,000	4,867,000	4,673,390	4,720,000	5,013,000
事務局運営費	930,000	920,000	920,000	920,000	915,000	935,000	900,000	900,000	900,000	900,000	850,000
基金	100,000	100,000	1,000,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	0	0	100,000
予備費	150,000	100,000	100,000	650,000	180,000	90,000	90,000	160,631	100,000	150,000	200,000
繰越金	644,800	221,000	712,000	823,000	1,181,000	748,000	590,000	1,150,000	872,769	1,822,986	1,795,046
合計	33,630,000	34,810,000	36,271,000	35,600,000	29,600,000	28,844,000	27,440,000	28,371,631	25,761,849	27,334,986	28,259,046





県連事務局のあゆみ

名誉会長 荒井 文 男

永年にわたり宇都宮市中心部に籍を置いた県連事務局が、このたび環境の変遷に伴う諸般の事情により、余儀なく郊外に移転となりました。今後の県連所属団体や関係者の交通上の問題等利便性を勘案した施策として止むを得ないものと思われます。

これまでは県庁中心部の利点を活かしながら県連運営の拠点として、数多くの担当者が精力的に尽力し、表面にはでない地道な活動を通して今日の県連発展の礎となったことは県連にとりまして大いに感謝しなければならないのではと思います。

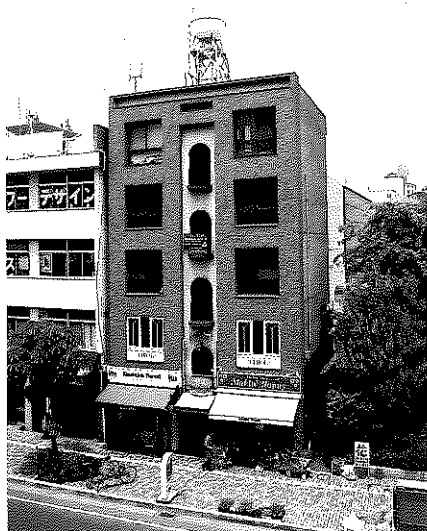
昭和5年県連創立当時の事務局は、50周年記念誌の年表に記載されていますが、最初は県体育協会内に設置され、その後県庁学務部教育課、県立宇都宮工業高校等の記録があり、第二次世界大戦勃発により戦時中はスポーツ全般の活動が休止されました。

終戦後は昭和22年から再開され、県連事務局は、当時SAJの理事であり、県連理事長であった千家哲麿氏（故人）が県観光課長として就任していた関係により、観光課内に設置されました。その後千家課長の本省転任により、昭和30年には後任として鈴木恒氏（故人）が観光課長となり、また県連理事長にも就任されました。昭和20年代から30年代の戦後の復興期には、県内観光地の開発とともにスキー場の整備及び新設のスキー場開発等にも尽力され、公務を通して両氏の貢献は計り知れないものがあります。

別途本誌掲載の「県連と共に半世紀」にも記述しましたが、当時県庁職員の私がスキー指導者を目指し練磨中に、千家、鈴木両氏に目を掛けられたことは私にとって大変な励みとなり、それ以来精進を重ね資格を取得できたことは云うまでもありません。その後私も県連総務担当理事に就任し、公務の傍ら県連事務局専任として事務処理に奔走しました。

永く県庁観光課に設置されていましたが事務局も、鈴木課長の退任後は県当局の方針により庁外に移転せざるを得なくなり、県連理事会にて協議の結果、私の居住地が県庁に隣接し県関係との便宜上適地とのことで昭和43年事務局移転となりました。その後昭和53年には5階建ビルを建設し同時に3階に事務室を設け県連事務局が正式に開局しました。

顧みますと、今回の移転まで実に42年間にわたり私の拙宅が県連の運営に大きく貢献できたことは、私のスキー人生にとっても忘れられない思い出となることでしょう。



第3章 専門部の歩み

この間、事務局運営に深く関わった歴代の総務部長は、初代の私の後、桑久保氏（故人）、小俣氏、高野（昌）氏、江連氏、また小野事務局長、小原澤担当理事の方々にも大変なご労苦をお掛けし、あらためまして本紙面をお借りし心より厚く御礼申し上げますとともに、新事務局が継続してさらに円滑な運営が図られ、今後とも県連発展のために寄与されることを期待いたしております。



新しい栃木県スキー連盟事務所

新事務所開設日	平成22(2010)年9月17日(金)
新事務所の住所	宇都宮市下金井町936番地8
新事務所電話番号	028-665-9111
新事務所FAX	028-665-9112
メールアドレス	ski_as_tochigi_1930@chorus.ocn.jp
新事務所の面積	123,38㎡(1階86,12㎡ 2階37,26㎡)

第2節 競技本部の10年



競技本部の10年

競技本部長 渡辺 陽一

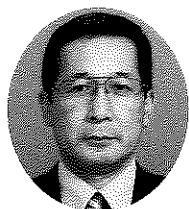
競技本部長として活動をさせていただいて、早や4年が終ろうとしています。それ以前は一父兄として、そのもっと以前は、競技部員として活動をしてきました。本部長として何をしてきたのか、数多くの諸先輩方の功績を汚す様な事はなかったか、諸先輩方が今日まで努力を惜しまずに堅実に築いて来られた競技本部を、今まで通りに、またそれ以上に運営して行けるのであろうかと、心配はつきませんでした。しかし、数多くの競技部員のみなさんや先輩方が、私の考えと同じ思いで活動してくれていて、その力で支えられての4年間であったと思います。

さて、その中での一番の心配は、競技人口の減少です。スキー界では、スキー人口の減少が数年前から問題となっていますが、競技界も同様な傾向が見られます。特に、学童（小学生）、ジュニア（中学生）の減少は、大きな問題です。これは、将来の選手、スキーヤーそして、スキークラブやスキー連盟の運営にも関わってくる問題であると思います。また、数年前から心配していたクロスカントリー選手の減少です。今年はずいに、学童の選手がいなくなってしまうました。そして間もなく、ジュニアの選手もなくなってしまうのです。ますますクロスカントリーの大会が寂しくなってしまいます。競技本部の会議では毎年議題にはのぼるのですが、これといった解決策は見つかりません。今後とも各スキークラブ、小中学校とも話を進めていければと思います。

この10年をふりかえる時、一番変化したのは、カービングスキーが登場し、定着し、もうすでにカービングスキーと云うことは自体がスキー一般を指し、また、ブーツなどもどんどん良くなり、マテリアルに技術がついて行けない様な気がします。今の学童の選手達は、初めて履いたスキーがカービングスキーの年代です。その点から考えると、初めてレースに出場するまでの時間が短くなった様な気がします。また、このスキーの特性を十分に活かして滑り込んで欲しいと思います。

今年は、残年ながら国体での得点は出来ませんでした。ハンターマウンテンスキークラブの足助未央選手が、第61回大会で3位、第62回大会で7位、第63回大会で7位と、3年連続入賞というすばらしい成績を残してくれました。

今後この様な成績を残すことは非常に困難と思われませんが、この立派な成績を目標に競技本部は、進んで行こうと思います。



選手強化対策

競技本部アルペン部長 神山 弘

本県の選手の育成は、中学生・高校生そして将来を担う小学生が中心で、大学生及び一般社会人は所属のスキー部の活動に頼っているのが現状です。

しかし、ここ10年間で本県の競技人口は激減しています。特に、小学生・中学生・高校生における競技者の減少は、深刻な問題になっています。競技者の減少は、全国大会での成績の低迷及び本県のスキー競技力の低下に大きく影響を及ぼしていると思います。

競技本部は、「スキー競技の健全な普及と、競技力の向上を図り、全国大会や国体で活躍する選手を育成する」ことを目標として、強化対策の見直しを図ってきました。

現在行っている選手強化事業は次の通りです。

【選手強化事業】

1. スキー連盟強化選手の指定

○特別強化指定 ○A指定 ○B指定 ○C指定 ○有望選手

強化選手の指定は、競技本部が中心となって前年度の競技成績を参考にし、強化指定選手選出基準により案がスキー連盟に出されます。

平成19年度までは、小学生から大学生まで多数の選手が指定を受けていましたが、平成20年度以降は、選手数の激減及び強化対策の見直しにより、指定選手の対象を小学生から高校生に絞ってA指定からC指定選手には補助金が交付されることになりました。

指定を受ける選手数は減りましたが、補助金が交付されることによって、指定選手としての意識は以前よりも高くなったと思います。

特別強化選手の指定は、全日本スキー連盟や栃木県体育協会が指定する選手で、平成15年度には三井田雄太（同志社大）選手が指定を受けています。また、平成19年度には足助未央（ハンターMT）選手が指定を受けましたが、それ以後は特別強化指定を受けた選手は出ていません。

2. 強化合宿

1) 夏合宿（陸上合宿） 高体連共催

参加対象は、小学生・中学生と高校生です。この合宿の目的は、体力づくり及びスキーに関する基礎知識の習得（トレーニングの方法・スキーの技術やルールの理解・ワクシング・チェーンナップの仕方等）です。

午前・午後と体力トレーニングを行い、夜のミーティングではトレーニングの方法等の講習を行います。

この合宿は、7月下旬と8月下旬の2回行われ、8月下旬の合宿ではブラシスキーでの合宿を行います。

2) 冬合宿（雪上合宿）

①北海道合宿

平成19年度までは、指定選手を対象に小学生から高校生までの多数の選手で行われていましたが、年齢差や技術の差があることと大人数のためコーチに予想以上の負担がかかることを考慮して、20年度以降はこの合宿の目標を、全国大会で活躍する選手を育成するための合宿とし少数精鋭で行うことになりました。

②学童・ジュニア合宿 第1次（12月上旬）・第2次（12月下旬）・第3次（3月下旬）

この合宿は、北海道合宿に参加できなかった指定選手及び有望選手の小学生と中学生が参加対象で実施されます。

この合宿の目的は、底辺の拡大と競技力の向上で選手達には、「全国大会を目指す選手になる」ことを意識させながら基本練習とポール練習を中心とした内容で行われています。

全国大会で活躍する選手を育成するという目標を達成するためには、この強化合宿を継続して行うことが重要だと思っています。

3. 優秀選手表彰

前年度、県内または全国大会で活躍した選手に対して優秀選手として表彰しています。

特に、全国大会で入賞した選手やそれに値する成績を残した選手には、最優秀選手として表彰されます。

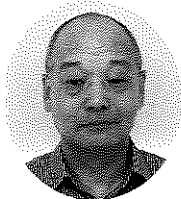
平成13年度には、三井田雄太（佐野日大高）選手が表彰を受けました。また、平成19年度および20年度には足助未央（ハンターMT）選手が表彰を受けました。

表彰の目的は、活躍した選手の労をねぎらうと共に、来年度の活躍を期待するものとして行われています。

以上が、現在行われている選手強化事業です。小学生・中学生・高校生の選手の減少は、本県にとって大きな問題であり今後この問題は、スキー連盟が一丸となって考えていかなければならない最も重要な問題ではないかと思えます。

競技本部アルペン部としても、県連や小学校・中学校・高校及び保護者との連携を密にし、協力体制を確立して選手の活動しやすい環境を整備しなければならないと思っています。

また、「一貫した指導」のマニュアルを作成して、学童からトップの選手まで一貫して育成強化する指導体制を整備しなければならないと思っています。



国民体育大会アルペン競技成績（大回転）

競技本部理事 奥 中 敏 則

第56回大会 平成13年2月16日(金)～21日(水) 長野県飯山市

成男A：16位 白河英隆、27位 足助彰信、67位 足助浩之、109位 高橋康範

成男B：46位 石谷友一、64位 谷川聡郎、DF 森元繁幸

成男C：50位 矢口一郎、61位 新井和夫

少・男：32位 三井田雄太、78位 藤田 勤、85位 佐久間秀介

117位 齋藤友康、118位 大塚佑樹、122位 柏木 悠

成女A：74位 星野波留香、81位 大塚昌代

成女B：23位 伊藤未佳子、DF 長谷川恭子

少・女：52位 金子美保、57位 針生優希、DF 野中のぞみ、DF 藤生彩香

第57回大会 平成14年2月18日(月)～23日(土) 新潟県妙高高原

成男A：14位 足助彰信、16位 白河英隆、93位 横島 良、106位 益子暁武

成男B：57位 涌井正之、61位 森元繁幸、74位 志鳥崇男

成男C：56位 布川嘉英、63位 武田由一、DF 石谷友一

少・男：36位 三井田雄太、77位 甲田夢希生、85位 柏木 悠

133位 植竹 令、139位 近藤直亮、DF 藤田 勤

成女A：78位 星野波留香

成女B：17位 伊藤未佳子

少・女：38位 藤生佳乃、55位 長島陽子、63位 細井郁代、75位 野中のぞみ

第58回大会 平成15年2月20日(木)～26日(水) 北海道名寄市

成男A：31位 足助彰信、32位 三井田雄太、41位 榎田泰明

成男B：12位 足助浩之、99位 森元繁幸、100位 谷川聡郎

成男C：62位 新井和夫、69位 布川嘉英、81位 飯田 信

少・男：51位 清野 学、98位 石田憲二郎、135位 近藤直亮

144位 甲田夢希生、DF 齋藤昌之、DS 根岸 遼

成女A：76位 藤生彩香

成女B：43位 和気真知子

少・女：42位 野中のぞみ、50位 長島陽子、63位 藤生佳乃、72位 細井郁代

第59回大会 平成16年2月19日(木)～24日(火) 山形県最上町

成男A：27位 三井田雄太、35位 足助彰信、54位 佐藤 剛、94位 榎田泰明

成男B：38位 足助浩之、47位 森元繁幸、70位 西村哲志

成男C : 41位 石谷友一、49位 横尾達也、DF 涌井正之
 少・男 : 82位 霍見恒平、90位 甲田夢希生、109位 根岸 遼
 144位 石田憲二郎

成女A : 74位 針生優希

成女B : 32位 小林 靖

少・女 : 26位 藤生佳乃、47位 細井郁代、68位 田中玲実、102位 田中理恵

第60回大会 平成17年2月20日(日)~25日(金) 岩手県網代町

成男A : 35位 三井田雄太、50位 足助彰信、98位 佐藤 剛、119位 小貫将一

成男B : 63位 谷川聡郎、DF 足助浩之、DF 森元繁幸

成男C : 50位 涌井正之、62位 野本芳彰、80位 新井和夫

少・男 : 67位 霍見恒平、91位 斎藤惇浩、DF 石田憲二郎、DF 根岸 遼

成女A : 66位 針生優希、DF 田中理恵

成女B : 43位 小林 靖、64位 大塚昌代

少・女 : 36位 田中玲実、61位 藤生佳乃、73位 金子由佳、79位 佐藤友美

第61回大会 平成18年2月17日(金)~22日(水) 群馬県片品村

成男A : 35位 三井田雄太、59位 石田憲二郎、94位 斎藤昌之、DF 根岸 遼

成男B : 63位 高橋康範、66位 足助浩之、69位 谷川聡郎

成男C : 42位 新井和夫、46位 石谷友一、DF 涌井正之

少・男 : 118位 鈴木幸展、166位 斎藤惇浩、167位 根岸 駿

172位 松田秀之、174位 田辺 直、DF 霍見恒平

成女A : 22位 長島陽子、46位 細井郁代、65位 田中玲実、DF 野中のぞみ

成女B : 3位 足助未央、27位 大塚昌代

少・女 : 87位 渡辺由樹

第62回大会 平成19年2月8日(金)~13日(火) 秋田県田沢湖町

成男A : 69位 柏木 悠、74位 石田憲二郎、DF 霍見恒平、DF 根岸 遼

成男B : 50位 足助彰信、75位 谷川聡郎、DF 福馬誠隆

成男C : 61位 新井和夫、DF 涌井正之、DF 西村哲志

少・男 : 39位 斎藤惇浩、76位 鈴木幸展、102位 根岸 駿、124位 樋口直哉

DF 小林高明、DF 松田秀之

成女A : 25位 長島陽子、63位 針生優希、67位 藤生佳乃、DF 細井郁代

成女B : 7位 足助未央

少・女 : 70位 岩原美佳、91位 渡辺由樹、DS 島 臯月

第63回大会 平成20年2月19日(火)~22日(金) 長野県野沢温泉スキー場

成男A : 59位 石田憲二郎、DF 霍見恒平、DF 斎藤惇浩

成男B : 64位 福馬誠隆、80位 高橋康範、85位 小山加津彦

第3章 専門部の歩み

成男C : 42位 西村哲志、67位 涌井正之、DF 森元繁幸

少・男 : 89位 鈴木幸展、104位 松田秀之、132位 根岸 駿、141位 佐藤研二
145位 樋口直哉、150位 小倉崇寛

成女A : 32位 長島陽子、53位 藤生佳乃、64位 細井郁代

成女B : 7位 足助未央

少・女 : 47位 小間菜々香、78位 小林優希、85位 島 皐月、87位 阿久津優佳

第64回大会 平成21年2月15日(日)~20日(金) 新潟県湯沢町

成男A : 42位 石田憲二郎、46位 崔見恒平、68位 高岡 将

成男B : 35位 小貫将一、70位 福馬誠隆、83位 宮崎俊臣

成男C : 27位 西村哲志、53位 涌井正之、DF 石谷友一

少・男 : 105位 田中大介、138位 水上早瀬、140位 薄井大輝
144位 稲葉史英、152位 島 武志、DF 阿久津長閑

成女A : 41位 針生優希、60位 藤生佳乃

成女B : 33位 大塚昌代、40位 山田知恵

少・女 : 47位 岩原美佳、57位 小間菜々香、83位 小林優希、88位 島 皐月

第65回大会 平成22年2月25日(木)~28日(日) 札幌市手稲山スキー場

成男A : 53位 三井田雄太、63位 高岡 将、DF 石田憲二郎

成男B : 58位 福馬誠隆、66位 木村洋介、69位 小山加津彦

成男C : 24位 森元繁幸、54位 西村哲志、DF 涌井正之

少・男 : 77位 木村知広、90位 高塩大樹、98位 薄井大輝、120位 松永 響
131位 永井諄之介、DF 阿久津長閑

成女A : 32位 長島陽子

成女B : 16位 針生優希、45位 山田知恵

少・女 : 53位 小間菜々香、71位 小林優希、79位 吉津谷怜香
88位 小林桃子



過去の国体参加で得たもの

ハンターマウンテンスキークラブ 足助 彰 信

国体には、10年以上栃木県代表選手として参加しました。その中で過去一番成績が良かったのは、成年A組代表で出場した平成14年第57回大会新潟県妙高国体の14番という成績でした。そのレースは、僕にとって大学4年で現役最後のレースでもあり、その後引退を考えていたレースでした。もちろん入賞をねらっていたので、この結果には満足した訳ではなかったのです。しかし、栃木県代表の責任として第一シードを確保できたことは良かったと思います。

その後、大学を卒業してハンターマウンテンに就職し、スキーを続けられることになりました。今はスキーにかかわる仕事をしながら、国体や基礎スキーの大会に出場しています。

僕にとってスキーとは、僕のライフワークです。競技時代や若いころは、スキーを本当に楽しんで行えていなかった様な気がします。今その頃の事を考えると、非常にもったいなかったです。僕はこれから先、僕を育ててくれた栃木県スキー連盟やスキー場関係者などに恩返しできる様に、僕がここまでやってきたスキーの経験や実績を活かし、現在衰退してきている栃木県スキーヤーの為に、指導者として活かされたいと思います。夫婦二人三脚で、スキーは本当に楽しい事を伝えられたら良いなと思っています。これからも頑張ります。



国体入賞の経験を胸に・・・

ハンターマウンテンスキークラブ 足助 未 央

競技スキーを始めてから、スキーにかかわらないことがなかった私ですが、就職を期に3年間スキーから遠ざかりました。栃木県に来てから、縁もあり再びスキーを始めて、国体に3年連続出場し、入賞できたことは、とてもうれしく思っています。

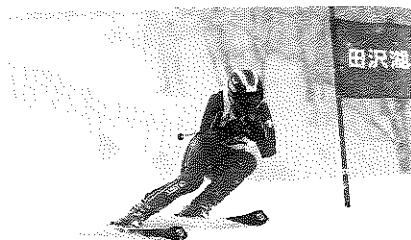
1年目は入賞できるとは思ってなかったので、楽しんで滑った結果、3位入賞には本当にびっくりしました。2年目、3年目は入賞したいという気持ちを持ちながらのレースでした。楽しいというよりは、失敗への不安の方が大きく、精神的な余裕がありませんでした。入賞できたことに安心しました。納得のいくレースをするには、技術面と精神面の充実が重要になると思います。

この三度の国体で、勝負の世界の厳しさを改めて感じましたが、



ますます、スキーを滑ることが楽しくなりました。

競技人口が減ってきていますが、今後、指導者としてこの経験を活かし、スキーの楽しさを伝え、スキーの普及に努めたいと思っています。



2010年栃木県スラローム大会を振り返って

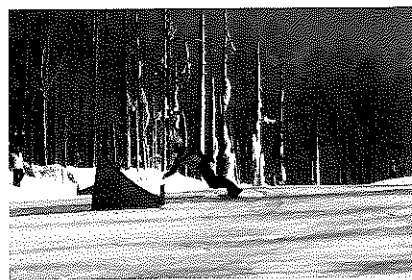
競技部本部理事 川 辺 友 晴

2010年1月18日、19日の2日間にわたり県G S L大会、スノーボード大会、県スラローム大会がハンターマウンテン塩原スキー場で沢山の選手の参加により盛大に開催されました。コースはレキシントンで両日とも天候にも恵まれ、絶好のコンディションのもとで行われました。2日目はスキー、スノーボードの両競技が同じコースを使用する為、一本目のセットを同時に行い先にスラローム、次にスノーボードの順で大会が進められました。私はコース審判係で、各旗門審判員のジャッジペーパーを試合中に滑りながら回収する係です。選手との接触に注意し、常に上を見ながら滑って回収します。万が一接触しても再レースがあるとはいえ、そういったアクシデントは絶対に避けなければいけません。また試合終了後はスキーマテリアルチェックをしますが、県大会は省略となり国体予選のG S Lのみの実施となりました。上位の選手以外は徹底不足のようで、今後の課題として考慮したいものです。

大会は、午前10時の開始から午後3時の終了まで、多くの理事・役員が協力しながら進められます。終了後の片付け作業の際には我々に加えて、参加した学生達が率先して手伝ってくれます。試合で疲れているにも関わらず、気持ち良く手伝ってくれる若者の姿には頭が下がります。

大会の結果は下記のとおりです。

栃木県スラローム塩原大会	1月19日
女子	1位 降矢 瑤子 足工大付属高
	2位 小林 優希 黒磯南高
	3位 小茂田香奈 中宮祠中
男子	1位 石田憲二郎 宇都宮
	2位 長友 海夢 間々田中
	3位 木村 知広 足工大付属高



スノーボード大会

栃木県スラローム那須大会 2月19日

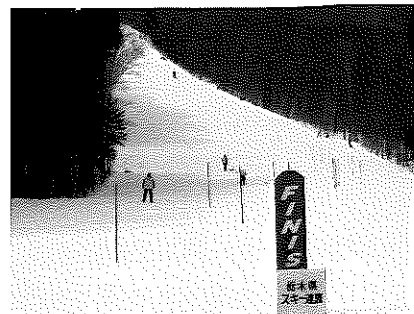
- 学童女子 1位 高倉 美悠 岡本北小
 2位 日向野 悠 中宮祠小
 3位 松永 瑞友 清滝小
 学童男子 1位 渡邊 佳亮 塩原小
 2位 金子 竣哉 大桑小
 3位 手塚 芳宗 御幸が原小

ジュニア女子

- 1位 小茂田香奈 中宮祠中
 2位 川井 紀乃 那須中
 3位 漆原 杏華 高林中

ジュニア男子

- 1位 原田 将寛 三島中
 2位 松永 響 今市中
 3位 泉 悠太 晃陽中
 一般男子 1位 石田憲二郎 宇都宮
 2位 田島 勇人 宇都宮
 3位 中津川裕昭 宇都宮



大会会場

私が理事に就任した当初は勉強不足で、理事としての責務を十分に果たす事ができませんでしたが、諸先輩理事の方々に助けて頂き今に至っています。クラブの一員としてスキー競技会に参加する事はありましたが、競技会の進行に携わってみると、裏方の運営スタッフの尽力は大変なものであると痛感しています。

昨今のスキーを取り巻く環境は、大変厳しくなっている中で特に競技人口の減少は著しいものを感じます。私の在籍する大平スキー協会でも、競技会等への参加を募ってもなかなか集まらない状況です。そうした中でクラブ主催のツアーに子供対象のバジテスト、ジュニアテストを企画したところ、大変好評でそれをきっかけにスキーを続ける子供達が増えています。私自身スキーから沢山の事を学び経験して来ました。これからは微力では有りますが、それらの事を子供達に伝えていきたいと思えます。



栃木県スキー連盟の歴史とともに歩む 県スキー選手権大会 ～10年間の優勝者の栄冠を称えて～

競技本部理事 伊部 哲郎

栃木県スキー連盟創立80周年記念大会 2010 スバルカップ 第79回栃木県スキー選手権大会が、平成22年3月13日（土）・14日（日）の両日に渡り開催されました。栃木県スキー連盟が誕生して80年を迎える今年、79回の回数を誇るこの競技会は、栃木県のスキー競技者において最も権威のある大会と位置づけられている競技会です。当日は、2010年栃木県学童スキー選手権大会も開催され、ジャイアントスラローム競技・スラローム競技において学童選手権の男女、県選手権（ジュニア・少年・一般）の男女で栄冠をつかむために熱い戦いが展開されました。

1936年（昭和11年）、当時の日光町（現日光市）が冬季オリンピックに立候補した以前の1930年（昭和5年）に、第1回栃木県スキー大会が塩原で開催されてから約80年、長い歴史と伝統に彩られたこの大会も、栃木スバル自動車株式会社様のご協賛を得る事で、「スバルカップ」という愛称で広くスキー競技者から親しまれる競技会となっているます。

10年前に実施された創立70周年記念のこの大会は、福島県の会津高原高畑スキー場にて実施されましたが、それ以降はハンターMt. 塩原スキー場にて開催されています。主に3月中旬に実施されるこの競技会は、スキー場の全面的なご協力と良好なバーンコンディションにより、県のチャンピオンを決定するに相応しい競技会となっているとともに、SAJの競技規則に準じた大会としてGS競技は2本の合計タイムで争うなど、競技本部としても最も権威ある競技会と言う位置づけで大会運営を行っています。

競技会実施にあたっては、栃木スバル株式会社様を始めスキー場、各所属団体の派遣役員の方々などの協力と多くの関係者のご理解により、本競技会が実施されている事に感謝申し上げます。また、明治乳業株式会社様からのVAAM製品等のご提供を頂いている事にも、この場をお借りし感謝申し上げます。

栃木県スキー連盟の歴史とともに歩むこの権威ある「栃木県スキー選手権大会」が、今後も県内スキー競技者の目指すべき最高峰の競技会となるよう、我々競技本部としても邁進して行きたい所存であるとともに、10年間の歴代優勝者に称賛と敬意を表したいと思います。



栃木スバル自動車(株)販売促進部長 田野井俊夫様の挨拶



網川千夫スキー連盟会長挨拶



宣誓の水上早瀬選手（栃木高3年）

栃木県スキー選手権大会歴代優勝者～栄冠を称える～

- 第79回 女子GS 小林 優希（黒磯南高）・SL 小茂田香奈（中宮祠中）
（22年） 男子GS 西村 哲志（宇都宮）・SL 石田憲二郎（宇都宮）
- 第78回 女子GS 岩原 美佳（宇都宮女子）・SL 岩原 美佳（宇都宮女子）
（21年） 男子GS 西村 哲志（宇都宮）・SL 石田憲二郎（宇都宮）
- 第77回 女子GS 長島 陽子（大東文化大）・SL 藤生 佳乃（東京女子体育大）
（20年） 男子GS 石田憲二郎（大東文化大）・SL 鈴木 幸展（足工大附属）
- 第76回 女子GS 小林 優希（塩原中）・SL 渡辺 由樹（黒磯南）
（19年） 男子GS 小貫 将一（足利）・SL 佐久間秀介（宇都宮）
- 第75回 女子GS 長島 陽子（大東文化大）・SL 長島 陽子（大東文化大）
（18年） 男子GS 柏木 悠（日本体育大）・SL 窪見 恒平（鹿沼高）
- 第74回 女子GS 藤生 佳乃（東京女子体育大）・SL 田中 玲実（佐野日大）
（17年） 男子GS 窪見 恒平（鹿沼高）・SL 窪見 恒平（鹿沼高）
- 第73回 女子GS 長島 陽子（大東文化大）・SL 藤生 佳乃（白鷗大足利）
（16年） 男子GS 石田憲二郎（佐野日大）・SL 窪見 恒平（鹿沼高）
- 第72回 女子GS 長島 陽子（佐野日大）・SL 藤生 佳乃（白鷗大足利）
（15年） 男子GS 窪見 恒平（藤原中）・SL 甲田夢希生（那須拓陽）
- 第71回 女子GS 長島 陽子（佐野日大）・SL 長島 陽子（佐野日大）
（14年） 男子GS 清野 学（作新学院）・SL 甲田夢希生（那須拓陽）
- 第70回 女子GS 藤生 彩香（佐野日大）・SL 藤生 彩香（佐野日大）
（13年） 男子GS 木谷 智尚（宇都宮）・SL 佐久間秀介（作新学院）



第26回栃木県ジュニアスキー大会，栃木県学童 スキー大会及び栃木県スキー連盟創立80周年記念 栃木県学童スキー選手権大会を振り返って

競技本部理事 田崎 真

栃木県スキー連盟創立80周年、誠におめでとうございます。私が競技役員として携わるようになってから26年が経ち、改めて栃木県スキー連盟80年の歴史の重みを感じます。私は、中学校の教員なので栃木県中学校体育連盟スキー専門部に所属し、主に中学生の選手育成や強化をしております。

しかし、ここ10年は行政で仕事をしていることが多いので、直接選手に関わる機会が少ないのが少々残念に思います。また、県スキー連盟も昨今の社会情勢に比例し、少子高齢化や長引く経済不況の影響を受けてか、競技人口が減少し厳しい状況下に置かれています。

参加選手の人数を見てみると、学童(小学生)が39人(男子15人、女子24人)、ジュニア(中学生)が19人(男子13人、女子6人)と非常に寂しい限りです。できれば、小学生で80人、中学生で50人はほしいところです。ある程度、競技人口がいないと互いに競い合ったり、ライバルをつくったりすることもできません。特に、小学生の競技人口を増やす対策を立てることが喫緊の課題だと思います。

大会における入賞者は以下の通りです。

(第26回栃木県ジュニアスキー大会 1/18)

女子GSL成績(敬称略)

順位	氏名	所属名	年	時間
1	大橋 理歩	氏家中	3	1'30"40
2	鈴木 恵美	白鷗足利中	2	1'31"15
3	小茂田香奈	中宮祠中	2	1'32"18
4	川井 紀乃	那須中	2	1'32"70
5	松永菜都乃	中宮祠中	1	1'34"36
6	漆原 杏華	高林中	2	1'40"62

男子GSL成績(敬称略)

順位	氏名	所属名	年	時間
1	長友 海夢	間々田中	2	1'24"52
2	福田 司	東原中	2	1'25"94
3	斎藤 岳	塩谷中	2	1'31"00
4	原田 将寛	三島中	1	1'31"40
5	泉 悠太	晃陽中	2	1'32"98
6	井上龍之介	鹿沼東中	2	1'36"29

〈栃木県学童スキー大会 1/13・14〉

6年女子SL成績 (敬称略)

順位	氏名	所属名	年	時間	時間	合計時間
1	菅野 麻衣	関谷小	6	1' 03" 75	1' 02" 53	2' 06" 28
2	高倉 美悠	岡本北小	6	1' 09" 37	1' 08" 04	2' 17" 41
3	佐々木亜樹	豊郷中央小	6	1' 09" 50	1' 08" 57	2' 18" 07
4	田村 彩華	中宮祠小	6	1' 11" 97	1' 09" 67	2' 21" 64
5	松永 都花	中宮祠小	6	1' 13" 28	1' 13" 07	2' 26" 35
6	細井万由樹	関谷小	6	1' 14" 72	1' 13" 11	2' 27" 83



左 高倉さん 右 菅野さん

5年女子SL成績 (敬称略)

順位	氏名	所属名	年	時間	時間	合計時間
1	青木 爽	関谷小	5	1' 15" 14	1' 12" 63	2' 27" 77
2	権田 紗希	宇大附属小	5	1' 13" 20	1' 14" 61	2' 27" 81
3	寺田木香野	那須小	5	1' 14" 83	1' 14" 09	2' 28" 92
4	福井つぐみ	那須小	5	1' 14" 30	1' 17" 21	2' 31" 51
5	織田まどか	関谷小	5	1' 27" 34	1' 26" 66	2' 54" 00



左 寺田さん 中 青木さん
右 権田さん

4年女子SL成績 (敬称略)

順位	氏名	所属名	年	時間	時間	合計時間
1	大山 桃佳	南原小	4	1' 21" 94	1' 18" 96	2' 40" 90
2	渡辺 綺良	那須小	4	1' 27" 94	1' 32" 06	3' 00" 00
3	日向野 京	中宮祠小	4	1' 37" 67	1' 46" 44	3' 24" 11



左 大山さん 右 渡辺さん

6年男子SL成績 (敬称略)

順位	氏名	所属名	年	時間	時間	合計時間
1	丸山 陽久	大山小	6	1' 23" 70	1' 10" 18	2' 33" 88



丸山さん

5年男子SL成績 (敬称略)

順位	氏名	所属名	年	時間	時間	合計時間
1	手塚 芳宗	御幸が原小	5	1' 04" 33	1' 03" 42	2' 07" 75
2	渡邊 佳亮	塩原小	5	1' 09" 88	1' 07" 56	2' 17" 44
3	伴 龍彦	湯西川小	5	1' 15" 04	1' 16" 61	2' 31" 65
4	福田 溪人	所野小	5	1' 17" 18	1' 15" 85	2' 33" 03
5	阿久津佳彦	湯西川小	5	1' 21" 70	1' 22" 69	2' 44" 39



手塚さん 左 渡邊さん
右 伴さん

第3章 専門部の歩み

4年男子S L成績 (敬称略)

順位	氏名	所属名	学年	時間	時間	合計時間
1	金子 竣哉	南原小	4	1'07"65	1'07"44	2'15"09
2	堀口 直暉	中宮祠小	4	1'13"57	1'16"12	2'29"69
3	樺渕 拓未	栃木第四小	4	1'17"30	1'15"40	2'32"70



左 金子さん 右 堀口さん

6年女子G S L成績 (敬称略)

順位	氏名	所属名	学年	時間
1	菅野 麻衣	関谷小	6	1'25"40
2	高倉 美悠	岡本北小	6	1'28"31
3	佐々木 亜樹	豊郷中央小	6	1'29"42
4	細井万由樹	関谷小	6	1'30"83
5	日向野 悠	中宮祠小	6	1'31"72
6	田村 彩華	中宮祠小	6	1'34"39

6年男子G S L成績 (敬称略)

順位	氏名	所属名	学年	時間
1	丸山 陽久	大山小	6	1'29"81
2	田村 俊樹	中宮祠小	6	1'44"48

5年女子G S L成績 (敬称略)

順位	氏名	所属名	学年	時間
1	青木 爽	関谷小	5	1'30"64
2	寺田木香野	那須小	5	1'31"12
3	権田 紗希	宇大附属小	5	1'34"95
4	松永 瑞友	清滝小	5	1'36"33
5	織田まどか	関谷小	5	1'46"09

5年男子G S L成績 (敬称略)

順位	氏名	所属名	学年	時間
1	手塚 芳宗	御幸が原小	5	1'21"84
2	君島 大雅	大原間小	5	1'25"87
3	渡邊 佳亮	塩原小	5	1'29"17
4	福田 溪人	所野小	5	1'36"68
5	伴 龍彦	湯西川小	5	1'37"87
6	阿久津佳彦	湯西川小	5	1'47"78

4年女子G S L成績 (敬称略)

順位	氏名	所属名	学年	時間
1	阿久津智花	那須小	4	1'45"19
2	渡辺 綺良	那須小	4	1'51"60
3	大山 桃佳	南原小	4	1'56"49
4	松永 真愛	清滝小	4	2'06"08
5	阿部 浩子	那須小	4	2'22"16
6	日向野 京	中宮祠小	4	2'23"96

4年男子G S L成績 (敬称略)

順位	氏名	所属名	学年	時間
1	金子 竣哉	南原小	4	1'29"65
2	阿部 元輝	湯西川小	4	1'45"22
3	樺渕 拓未	栃木第四小	4	1'45"80
4	矢口 雅也	田代小	4	1'52"47
5	堀口 直暉	中宮祠小	4	1'54"59

〈栃木県スキー連盟創立80周年記念 栃木県学童スキー選手権大会 3/13・14〉

学童女子G S L成績 (敬称略)

順位	氏名	所属名	学年	時間
1	高倉 美悠	岡本北小	6	1' 12" 20
2	菅野 麻衣	関谷小	6	1' 14" 88
3	寺田木香野	那須小	5	1' 16" 04
4	日向野 悠	中宮祠小	6	1' 18" 58
5	佐々木亜樹	豊郷中央小	6	1' 20" 28
6	松永 瑞友	清滝小	5	1' 20" 39

学童男子G S L成績 (敬称略)

順位	氏名	所属名	学年	時間
1	手塚 芳宗	御幸が原小	5	1' 11" 11
2	君島 大雅	大原間小	5	1' 14" 53
3	金子 竣哉	大桑小	4	1' 15" 86
4	伴 龍彦	湯西川小	5	1' 20" 58
5	福田 溪人	所野小	5	1' 22" 17
6	田村 俊樹	中宮祠小	6	1' 22" 80

学童女子S L成績 (敬称略)

順位	氏名	所属名	学年	時間	時間	合計時間
1	高倉 美悠	岡本北小	6	58" 16	58" 26	1' 56" 42
2	日向野 悠	中宮祠小	6	59" 13	58" 79	1' 57" 92
3	菅野 麻衣	関谷小	6	59" 69	58" 78	1' 58" 47
4	佐々木亜樹	豊郷中央小	6	1' 02" 50	1' 00" 34	2' 02" 84
5	松永 瑞友	清滝小	5	1' 03" 66	59" 69	2' 03" 35
6	松永 都花	中宮祠小	6	1' 02" 69	1' 01" 75	2' 04" 44

学童男子S L成績 (敬称略)

順位	氏名	所属名	学年	時間	時間	合計時間
1	手塚 芳宗	御幸が原小	5	58" 22	58" 10	1' 56" 32
2	金子 竣哉	大桑小	4	59" 12	59" 10	1' 58" 22
3	渡邊 佳亮	塩原小	5	1' 00" 67	59" 06	1' 59" 73
4	樺淵 拓未	栃木第四小	4	1' 05" 01	1' 04" 83	2' 09" 84
5	堀口 直暉	中宮祠小	4	1' 05" 58	1' 05" 33	2' 10" 91
6	田村 俊樹	中宮祠小	6	1' 10" 13	1' 06" 27	2' 16" 40



栃木県GSL大会10年を振り返って

競技本部理事 山口昌利

栃木県スキー連盟創立80周年おめでとうございます。この記念すべき年に栃木県スキー連盟に携わっていることを、大変うれしく思っています。

さて、栃木県GSL大会の過去10年間振り返ってみると、2001年に県GSL大会の会場を、2000年まで実施していたハンターマウンテン塩原スキー場からMTジーンズ那須スキー場に移し、2007年まで県外の福島県高畑スキー場との2会場で開催していました。そして2008年から、福島県高畑スキー場をMTジーンズ那須スキー場へと会場を移し、県GSL大会の2戦はともに、MTジーンズ那須スキー場での開催へと変わりました。その大会会場の移動によって競技本部すべての大会が、県内のスキー場で行われることとなりました。そのことにより選手の負担が軽減され、大会に出場しやすい環境となったことは事実であります。栃木県スキー連盟80周年を迎えるにあたり、開催会場の変更は大きな意味を持つと考えます。しかしながら、その環境は整ったもの、大会出場選手の減少には未だ歯止めがかかっておらず、特に女子選手の減少は著しいものです。

今後は学童の育成やジュニアからの継続的出場など、さまざまな課題に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

《過去10年間の栃木県GSL大会における上位選手は以下の通りです。》

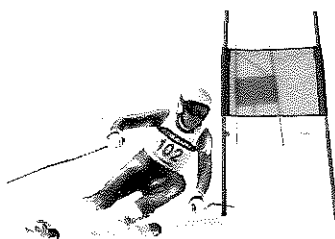
年度		会場	性別	優勝	2位	3位
2001年	第1戦	高畑	男子	木谷 智尚 (宇都宮)	藤田 勤 (作新学院)	甲田夢希生 (塩原中)
			女子	藤生彩香 (佐日大付)	長島陽子 (佐日大付)	野中のぞみ (氏家)
	第2戦	ジーンズ	男子	柏木悠 (鹿沼)	木谷智尚 (宇都宮)	佐久間秀介 (作新)
			女子	藤生彩香 (佐日大付)	金子美保 (那須拓陽)	野中のぞみ (氏家)
2002年	第1戦	高畑	男子	柏木 悠 (鹿沼)	佐久間秀介 (宇都宮)	石谷 友一 (宇都宮)
			女子	野中 のぞみ (氏家)	田中理恵 (佐日大付)	藤生彩香 (佐日大付)
	第2戦	ジーンズ	男子	高橋康範 (ハンター)	榎田 泰明 (宇都宮)	石谷 友一 (宇都宮)
			女子	藤生 佳乃 (白鷗大足)	田中理恵 (佐日大付)	細井郁代 (佐日大付)
2003年	第1戦	高畑	男子	柏木 悠 (鹿沼)	石谷 友一 (宇都宮)	甲田夢希生 (那須拓陽)
			女子	藤生 佳乃 (白鷗大足)	君島 陸深 (那須拓陽)	細井郁代 (佐日大付)
	第2戦	ジーンズ	男子	高橋康範 (ハンター)	高山 雅之 (宇都宮)	渡辺 勇太 (那須高)
			女子	藤生 佳乃 (白鷗大足)	細井郁代 (佐日大付)	田中理恵 (佐日大付)
2004年	第1戦	高畑	男子	石谷 友一 (宇都宮)	飯田 信 (宇都宮)	高橋康範 (ハンター)
			女子	金子 由佳 (鹿沼東)	和氣真知子 (宇都宮)	佐藤 友美 (日光高)
	第2戦	ジーンズ	男子	鶴見 公平 (鹿沼高)	横尾 達也 (宇都宮)	藤田 勤 (栗山)
			女子	長島陽子 (佐日大付)	藤生 佳乃 (白鷗大足)	金子 由佳 (鹿沼東)

2005年	第1戦	高畑	男子	野本 芳彰 (那須)	吉本 淳治 (宇都宮)	飯田 信 (宇都宮)
			女子	野中のぞみ (日体大)	金子 由佳 (鹿沼東)	渡辺 由樹 (黒磯南)
	第2戦	ジーンズ	男子	鶴見 公平 (鹿沼高)	横尾 達也 (宇都宮)	高山 雅之 (宇都宮)
			女子	佐藤 友美 (日光高)	渡辺 由樹 (黒磯南)	—
2006年	第1戦	高畑	男子	西村 哲志 (宇都宮)	熊倉 真吾 (宇都宮)	石谷 友一 (宇都宮)
			女子	佐藤 友美 (日光高)	渡辺 由樹 (黒磯南)	金子 由佳 (鹿沼東)
	第2戦	ジーンズ	男子	涌井 正之 (宇都宮)	小山田 耕士 (矢板)	鈴木幸展 (足工大付)
			女子	小林 孝子 (日光)	渡辺 由樹 (黒磯南)	—
2007年	第1戦	高畑	男子	強風のため中止		
			女子	強風のため中止		
	第2戦	ジーンズ	男子	涌井 正之 (宇都宮)	植竹 令 (宇都宮)	田中大介 (国学院大)
			女子	大高 千晶 (大女高)	小林 靖 (足利)	—
2008年	第1戦	ジーンズ	男子	石田憲二郎 (大東大)	佐久間秀介 (宇都宮)	植竹 令 (宇都宮)
			女子	阿久津優佳 (宇中女)	鮎川菜々子 (宇都宮)	福田 紫 (日光明峰)
	第2戦		男子	石谷 友一 (宇都宮)	宮崎 俊臣 (栃木)	佐久間秀介 (宇都宮)
			女子	小林優希 (黒磯南)	阿久津優佳 (宇中女)	鮎川菜々子 (宇都宮)
2009年	第1戦	ジーンズ	男子	野本 芳彰 (那須)	植竹 令 (宇都宮)	君島 肇 (那須塩原)
			女子	吉津谷怜香 (今市高)	福田 紫 (日光明峰)	横田知亜紀 (日光明峰)
	第2戦		男子	石谷 友一 (宇都宮)	涌井 正之 (宇都宮)	森元 繁幸 (矢板)
			女子	山田 知恵 (宇都宮)	鮎川菜々子 (宇都宮)	阿久津如子 (栃木)
2010年	第1戦	ジーンズ	男子	野本 芳彰 (那須)	君島 肇 (那須塩原)	高山 英樹 (宇都宮)
			女子	—	—	—
	第2戦		男子	竹節 真也 (那須)	高橋 康範 (ハッケー)	石谷 友一 (宇都宮)
			女子	三品 汐梨 (宇中女)	—	—

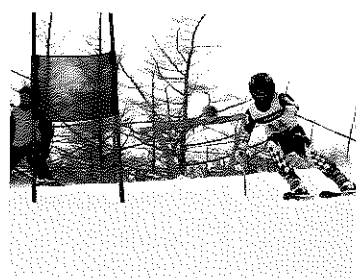
＜2010年県GSL大会優勝者＞



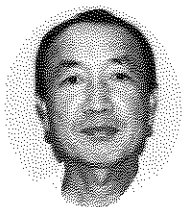
竹節真也選手



野本芳彰選手



三品汐梨選手



1999年～ 全日本スキーマスターズ 上位入賞者の記録

競技副本部長 宇賀神 亨

シーズン	会場	参加	選手名	クラス	順位	
1999	白馬乗鞍	長野 女子1名 男子10名	鶴見久子		2位	3位
			鶴見宜典	65	3位	3位
			大島一夫	60	3位	
			藤田武人	45	6位	5位
2000	池の平	新潟 男子16名	鶴見宜典	70	2位	
			藤田武人	50	4位	2位
			君島元	50	5位	5位
2001	池の平	新潟 女子1名 男子12名	後藤昌弘(XC)	65	4位	3位
			鶴見久子		6位	6位
			鶴見宜典	70	1位	5位
			君島元	55	2位	2位
			藤田武人	50	2位	3位
2002	旭川	北海道 男子7名	鶴見宜典	70	3位	
			大島一夫	60	6位	
2003	猪苗代	福島 女子2名 男子20名	後藤昌弘(XC)	65	4位	
			鶴見久子		4位	
			新井知子		6位	6位
			鶴見宜典	70	3位	
			小林光雄	40	2位	
			相沢かおる(XC)	40	1位	1位
2004	田沢湖	秋田 男子12名	早川静雄(XC)	45		1位
			鶴見宜典	70	4位	
			大島一夫	65	4位	2位
			福澤洋治	60	5位	
			星伸也(XC)	50	2位	2位
2005	小樽	北海道 男子9名	後藤昌弘(XC)	70	4位	3位
			星伸也(XC)	50	2位	2位
			鶴見宜典	75	3位	1位
2006	田沢湖	秋田 男子9名	星伸也(XC)	50	3位	4位
2007	猪苗代	福島 男子16名	鶴見宜典	75	4位	4位
			福澤洋治	65	5位	
			小山田孝夫	55	3位	
			小林光雄	45	2位	
			星伸也(XC)	50	2位	2位
2008	柵池	長野 男子11名	鶴見宜典	75	5位	4位
			大島一夫	65	10位	
			星伸也(XC)	55	2位	3位
2009	雫石	岩手 男子10名	佐藤六夫	80	7位	6位
			鶴見宜典	75	6位	6位
			大島一夫	70	4位	9位
			星伸也(XC)	55	3位	
2010	南魚沼	新潟 男子11名	大島一夫	70		9位
			星伸也(XC)	55	1位	4位



クロスカントリー

競技本部クロスカントリー部 渡辺 吉晴
栃木県スキー連盟80周年おめでとうございます。

さて、県内の国体予選、学童・ジュニア、県選手権、マスターズの各大会が以前の福島県台鞍から、きぬがわ高原カントリークラブにお世話になるようになって10年以上が経ちました。この間、学童・ジュニアは03年までは日光大会、全日本公認の奥日光クロスカントリースキー大会も光徳クロスカントリースキー場で行われていました。

当時は、ゴルフ場にも宿泊のスキー客が溢れ、本県のクロスカントリー競技人口も決して多いとは言えないが、それなりのエントリー数がありました。近年、全国的な競技人口の減少などにより、県内各大会のエントリー数も激減してしまいました。そんな中でも学童・ジュニア時代からの地道な強化によって大塚裕太、君島誉士(共に那須拓陽→東農大)、町田 巧(作新高→道都大)選手等、全国で活躍する選手も生まれました。全日本マスターズでも本県の選手は活躍しています。

毎年、年明けの合宿から始まり、各大会はきぬがわ高原カントリークラブの全面的な協力と、高体連、中体連との連携でコースを作り大会を運営してきました。

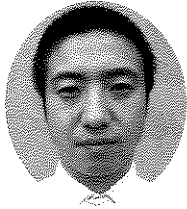
自然環境の中の屋外競技なので、悪天候などにより大会がキャンセルになったり、深刻な雪不足によってハンターマウンテンのコースをお借りして、ナイターでの国体予選などということもありました。いつも競技本部全員で乗り越えてきました。

今シーズンは、特に各大会のエントリー数が少なく、寂しいシーズンになってしまいました。これからも競技スキーの普及、選手の強化に全力で取り組まなければなりません。関係各位のご協力をお願いいたします。

==== 国体予選スケッチ ====

(2010.1.17)





インターハイ10年

競技本部アルペン部 源 田 道 昭

高校生最高峰の大会でもあり、今年で第59回をかぞえる全国高等学校スキー大会が毎年開催されています。ここ数年、競技人口の減少により、栃木県内の参加人数が年々少なくなっていることが非常に残念です。また、暖冬によって降雪が少なく本戦だけでなく、栃木県内の予選会も厳しい年もありました。しかし、大会関係者の大変なご尽力により、選手も良い環境で参加させていただいていることに対して、心から御礼申し上げます。

さて、ここ10年の栃木県選手のインターハイでの成績ですが、残念なことに入賞者が出ていないのが現状です。なかなか結果には結びつかないが、日ごろの努力の成果を存分に発揮し胸を張って大会に参加している選手ばかりなので、卒業後は全日本学生スキー大会や国民体育大会等の全国大会で活躍をしています。

私が初めてインターハイに参加したのは第53回の旭川大会です。気温は氷点下20℃、大会会場までの移動時間が1時間という悪条件の中、参加したのを覚えています。その後、毎年参加させていただいていますが、第56回の富山大会では極端な雪不足により大会パークのゴールより下は雪がなく、リフトで下のような状況で開催された大会もありました。第59回の富良野大会では、最終日の女子SLが悪天候のため中止かと思われましたが、大会史上初めて、次の日への延期という処置がとられ、他県の中には学校の関係で大会に参加できないで帰っていく選手の姿もありました。また、この大会ではクロスカントリー-競技に出場する栃木県の選手が、いなくなってしまうという寂しい大会でもありました。

これからの目標ですが、10年後の90周年を迎えるまでに、全国で1人でも多くの入賞者を出せるようにと思っています。選手ともどもトレーニングを重ねて今以上に努力して、いい報告ができるように臨んで行きたいと思います。



第59回インターハイ出場 木村 知広選手 (足工大)

《インターハイの記録》

第50回全国高等学校スキー大会 期日 平成13年2月3日～7日 会場 新潟県 妙高高原

アルペン 男子 回転

大回転

15位 三井田 雄 太 (佐日大)

41位 三井田 雄太 (佐日大)

37位 佐久間 秀 介 (作 新)

89位 柏 木 悠 (鹿 沼)

第2節 競技本部の10年

65位 齊藤友康(日光)	115位 藤田勤(日光)
女子回転	大回転
73位 藤生彩香(佐日大)	85位 針生優希(黒磯)
82位 針生優希(黒磯)	90位 藤生彩香(佐日大)
102位 野中のぞみ(氏家)	91位 金子美保(作新)
クロカン 男子 10Kクラシカル	15Kフリー
62位 大塚裕太(那拓陽)	39位 大塚裕太(那拓陽)
115位 尾形朋宣(黒磯)	129位 尾形朋宣(黒磯)
147位 野本真也(作新)	143位 野本真也(作新)
女子 5Kクラシカル	10Kフリー
135位 清水淑子(黒磯南)	137位 清水淑子(黒磯南)
154位 宇賀神美子(黒磯南)	152位 宇賀神美子(黒磯南)
156位 小泉薫(黒磯南)	155位 小泉薫(黒磯南)
男子リレー 46位 作新学院	女子リレー 39位 黒磯南高校

第51回全国高等学校スキー大会 期日 平成14年2月5日～9日 会場 青森県 大鱒町

アルペン 男子 回転	大回転
80位 三井田賢太(白鷗)	44位 三井田雄太(佐日大)
DNF 三井田雄太(佐日大)	80位 柏木悠(鹿沼)
DNF 柏木悠(鹿沼)	83位 清野学(作新)
DNF 甲田夢希生(那拓陽)	
女子 回転	大回転
53位 藤生佳乃(白鷗)	47位 長島陽子(佐日大)
73位 針生優希(黒磯)	85位 藤生佳乃(白鷗)
DNF 長島陽子(佐日大)	88位 細井郁代(佐日大)
クロカン 男子 10Kクラシカル	15Kフリー
24位 大塚裕太(那拓陽)	39位 大塚裕太(那拓陽)
125位 町田巧(作新)	126位 町田巧(作新)
147位 野本真也(作新)	135位 星宏海(那清峰)
158位 尾形高宣(作新)	144位 尾形高宣(作新)
女子 5Kクラシカル	10Kフリー
76位 豊島みなみ(那拓陽)	52位 豊島みなみ(那拓陽)
82位 石川いずみ(那拓陽)	86位 石川いずみ(那拓陽)
124位 君島晴菜(那拓陽)	118位 君島晴菜(那拓陽)
男子リレー 42位 作新学院	

第3章 専門部の歩み

第52回全国高等学校スキー大会 期日 平成15年2月3日～7日 会場 岐阜県 高山町

アルペン 男子 回 転	大回転
77位 柏 木 悠 (鹿 沼)	60位 柏 木 悠 (鹿 沼)
92位 清 野 学 (作 新)	76位 清 野 学 (作 新)
103位 齊 藤 昌 之 (作 新)	
女子 回 転	大回転
47位 藤 生 佳 乃 (白 鷗)	42位 長 島 陽 子 (佐日大)
85位 野 中 のぞみ (氏 家)	61位 藤 生 佳 乃 (白 鷗)
DNF 長 島 陽 子 (佐日大)	72位 野 中 のぞみ (氏 家)
クロカン 男子 10Kクラシカル	15Kフリー
96位 町 田 巧 (作 新)	48位 町 田 巧 (那拓陽)
104位 君 島 誉 士 (那拓陽)	129位 君 島 誉 士 (那拓陽)
117位 星 宏 海 (那清峰)	108位 尾 形 高 宣 (作 新)
158位 尾 形 高 宣 (作 新)	129位 星 宏 海 (那清峰)
女子 5Kクラシカル	10Kフリー
52位 石 川 いずみ (那拓陽)	55位 豊 島 みなみ (那拓陽)
61位 豊 島 みなみ (那拓陽)	63位 石 川 いずみ (那拓陽)
72位 大 塚 みゆき (那拓陽)	98位 大 塚 みゆき (那拓陽)
男子リレー	女子リレー
42位 作 新 学 院	24位 那 須 拓 陽 高 校

第53回全国高等学校スキー大会 期日 平成16年2月6日～10日 会場 北海道 旭川市

アルペン 男子 回 転	大回転
69位 崔 見 恒 平 (鹿 沼)	88位 崔 見 恒 平 (鹿 沼)
93位 近 藤 直 亮 (足工大)	94位 石 田 憲 二 郎 (佐日大)
DNF 甲 田 夢 希 生 (那拓陽)	103位 根 岸 遼 (佐日大)
女子 回 転	大回転
62位 藤 生 佳 乃 (白 鷗)	28位 藤 生 佳 乃 (白 鷗)
86位 長 島 陽 子 (佐日大)	70位 細 井 郁 代 (佐日大)
DNF 田 中 玲 実 (佐日大)	111位 田 中 玲 実 (佐日大)
クロカン 男子 10Kクラシカル	15Kフリー
74位 君 島 誉 士 (那拓陽)	100位 君 島 誉 士 (那拓陽)
110位 大 塚 拓 也 (那拓陽)	104位 宇 賀 神 拓 三 (黒磯南)
123位 宇 賀 神 拓 三 (黒磯南)	108位 大 塚 拓 也 (那拓陽)
127位 中 川 雅 之 (那清峰)	129位 鈴 木 成 基 (作 新)

女子 5Kクラシカル

10Kフリー

52位 大塚 みゆき (那拓陽)

55位 大塚 みゆき (那拓陽)

第54回全国高等学校スキー大会 期日 平成17年2月5日～9日 会場 群馬県 片品村

アルペン 男子 回転

大回転

43位 霍見 恒平 (鹿沼)

74位 霍見 恒平 (鹿沼)

DNF 石田 憲二郎 (佐日大)

93位 石田 憲二郎 (佐日大)

DNF 齊藤 惇浩 (作新)

118位 齊藤 惇浩 (作新)

女子 回転

大回転

64位 田中 玲実 (佐日大)

73位 田中 玲実 (佐日大)

85位 渡辺 由樹 (黒磯南)

114位 金子 由佳 (鹿沼東)

93位 佐藤 友美 (日光)

118位 佐藤 友美 (日光)

クロカン 男子 10Kクラシカル

15Kフリー

110位 君島 誉士 (那拓陽)

110位 君島 誉士 (那拓陽)

122位 大塚 拓也 (那拓陽)

119位 大塚 拓也 (那拓陽)

123位 中川 雅之 (那清峰)

127位 中川 雅之 (那清峰)

127位 宇賀神 拓三 (黒磯南)

130位 宇賀神 拓三 (黒磯南)

女子 5Kクラシカル

10Kフリー

81位 大塚 みゆき (那拓陽)

91位 大塚 みゆき (那拓陽)

第55回全国高等学校スキー大会 期日 平成18年2月3日～7日 会場 秋田県 鹿野市

アルペン 男子 回転

大回転

84位 松田 秀之 (佐日大)

74位 鈴木 幸展 (足工大)

100位 霍見 恒平 (鹿沼)

DNF 霍見 恒平 (鹿沼)

DNF 齊藤 惇浩 (作新)

DNF 齊藤 惇浩 (作新)

女子 回転

大回転

80位 佐藤 友美 (日光)

100位 渡辺 由樹 (黒磯南)

DNF 渡辺 由樹 (黒磯南)

101位 佐藤 友美 (日光)

クロカン 男子 10Kクラシカル

15Kフリー

83位 大塚 拓也 (那拓陽)

90位 大塚 拓也 (那拓陽)

155位 小林 亘 (那拓陽)

171位 嶋根 達夫 (作新)

160位 嶋根 達夫 (作新)

127位 小林 亘 (那拓陽)

第3章 専門部の歩み

第56回全国高等学校スキー大会 期日 平成19年2月2日～6日 会場 富山県 南砺市

アルペン 男子 回転

大回転

56位	小林 嵩明 (那清峰)	80位	長島 秀人 (佐日大)
DNF	長島 秀人 (佐日大)	96位	小林 嵩明 (那清峰)
DNF	鈴木 幸展 (足工大)	DNF	齊藤 惇浩 (作新)

女子 回転

大回転

74位	岩原 美佳 (宇女)	70位	岩原 美佳 (宇女)
87位	大高 千晶 (大女)	101位	大高 千晶 (大女)
90位	渡辺 由樹 (黒磯南)	105位	渡辺 由樹 (黒磯南)

クロカン 男子 10Kクラシカル

15Kフリー

151位	橋本 良太 (黒磯)	145位	橋本 良太 (黒磯)
165位	鈴木 将司 (作新)	169位	田崎 湧太 (作新)
181位	館野 和也 (作新)	180位	館野 和也 (作新)

第57回全国高等学校スキー大会 期日 平成20年2月2日～6日 会場 新潟県 湯沢町 十日町

アルペン 男子 回転

大回転

69位	鈴木 幸展 (足工大)	DNF	佐藤 研二 (今市)
72位	松田 秀之 (佐日大)	DNF	松田 秀之 (佐日大)
DNF	長島 秀人 (佐日大)	DNF	長島 秀人 (佐日大)

女子 回転

大回転

55位	小間 菜々香 (大女)	52位	小間 菜々香 (大女)
82位	岩原 美佳 (宇女)	68位	岩原 美佳 (宇女)
112位	大高 千晶 (大女)	86位	小林 優希 (黒磯南)

クロカン 男子 10Kクラシカル

15Kフリー

109位	橋本 良太 (黒磯)	124位	宇賀神 誠 (黒磯)
159位	田崎 湧太 (作新)	149位	田崎 湧太 (作新)
181位	館野 和也 (作新)	160位	橋本 良太 (作新)

第58回全国高等学校スキー大会 期日 平成21年2月2日～6日 会場 長野県 白馬村

アルペン 男子 回転

大回転

80位	田中 大介 (国学栃)	100位	田中 大介 (国学栃)
DNF	水上 早瀬 (栃木)	118位	稲葉 史英 (足工大)
DNF	稲葉 史英 (足工大)	DNF	水上 早瀬 (栃木)

女子 回転

大回転

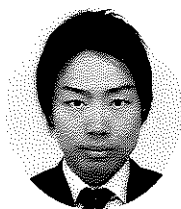
DNF	小間 菜々香 (大女)	77位	岩原 美佳 (宇女)
-----	-------------	-----	------------

第2節 競技本部の10年

DNF 岩原美佳(宇女)	86位 小林優希(黒磯南)
DNF 小林優希(黒磯南)	DNF 小間菜々香(大女)
クロカン 男子 10Kクラシカル	15Kフリー
144位 宇賀神 誠 (黒磯)	131位 宇賀神 誠 (黒磯)
162位 鈴木将司(作新)	149位 鈴木将司(作新)
DS 田崎湧太(作新)	DS 田崎湧太(作新)

第59回全国高等学校スキー大会 期日 平成22年2月2日～7日 会場 北海道 富良野市

アルペン 男子 回転	大回転
78位 稲葉史英(足工大)	DNF 木村知広(足工大)
DNF 木村知広(足工大)	DNF 薄井大輝(足工大)
DNF 阿久津長閑(足工大)	DS 永井諄之介(佐日大)
女子 回転	大回転
68位 小間菜々香(大女)	51位 小間菜々香(大女)
99位 小林優希(黒磯南)	111位 吉津谷 伶香(今市)
DS 降矢瑤子(足工大)	DS 降矢瑤子(足工大)



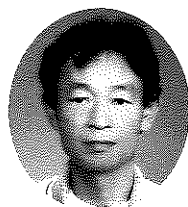
感謝

三井田 雄 太

私は群馬県出身ですが、自己紹介の際、決まって栃木県的话题を出します。これは、単に佐野日大高出身であったからではありません。栃木県スキー連盟の選手として活動し、自分の人間形成期において非常に大きな影響、また、大きな支援を頂いたことにより自分のアイデンティティーは栃木にあると自負するようになったからです。他県出身であった私ですが、連盟関係者の方々には、県内出身選手と分け隔てなくスキー活動における支援を頂きました。特に、当時の出口競技本部長には、韓国での初冬合宿や公認大会への推薦等、多大なサポートを頂き、関東高校優勝やインターハイSL15位といった成績を出す事が出来ました。本当に多くの方々のご支援を受けてきたからこそ、スキーに邁進できたと感じています。

社会人となった現在もスキーを続けていますが、可能な限り後進への指導も行っていきたいと思います。自分がスキーを通じて学んできたこと、培ってきた技術を次の世代に伝えていくことで、少しでも連盟に貢献できればと考えています。選手の高い志と親の多面的な支援、連盟の更なる環境作りが重なれば、強豪県の仲間入りも実現可能です。

終わりに、栃木県スキー連盟の益々のご発展を祈念すると共に、感謝の意を表します。



モーグル大会

競技本部理事 フリースタイル部長 阿部達男

大会を開催するきっかけとなったのは、私が、平成11年に理事に推薦され、競技本部に配属された際、ある黒磯在住の知人から「フリースタイル競技選手を受け入れる所が無く、県連として検討してほしい」と相談を受けたことでした。当時、所属団体ごとに登録は出来ましたが、TCMやロールコール時に不具合が出るなど諸問題を残していました。そこで、それらを抜本的に改善するために総括的に私の加盟する大田原スキー協会での受け入れを提案し、県連の協力の下、諸問題への対応を一本化という形で実現することができました。その後、加盟運動の甲斐あって栃木県在住で他県連に登録していた選手も翌年から相次いで登録変更し、後に「エーデルFSC」と言うチームを立ち上げるに至りました。現在は約80名の会員が活発に活動しています。



大会開催までの経緯は、平成11年に、活動の充実を目的として、フリースタイルについて埼玉県スキー連盟の大会を視察させていただき、いろいろなアドバイスを頂きました。そして、栃木県初の大会開催の機運が高まったことをきっかけに、スキー場や選手・関係



機関の協力の下、翌年、第1回エーデルカップ草大会を開催することができました。長野オリンピック開催後、間もなかったこともあり、第1回大会は多数の選手が参加し大成功に終わりました。そして、翌年の第2回大会への準備と並行して、B級大会へ昇格させようとスキー場の理解を求め公認バーンの申請を行い、同時に、公認審判員の資格を取得しました。

そして、平成14年に念願の第1回の公認B級大会を開催することができました。これまでの大会開催の経緯は以下の通りです。

2000	第1回エーデルカップ 草大会	平成12年
2001	第2回エーデルカップ 草大会	平成13年
2002	第1回B級公認エーデルワイスモーグル大会	平成14年
2003	第2回B級公認エーデルワイスモーグル大会	平成15年
2004	第3回B級公認エーデルワイスモーグル大会	平成16年
2005	第4回B級公認エーデルワイスモーグル大会 (埼玉と連戦)	平成17年
2006	第5回B級公認エーデルワイスモーグル大会 (埼玉と連戦)	平成18年
2007	第6回B級公認エーデルワイスモーグル大会 (茨城と連戦)	平成19年

2008	第7回B級公認エーデルワイスモーグル大会（茨城と連戦）	平成20年
2009	第8回B級公認エーデルワイスモーグル大会	平成21年
2010	ジュニアオリンピック	平成22年

（第7回大会と第8大会は雪不足のため中止）

ジュニアオリンピックは22年・23年と2年続けて開催されます。22年の大会はあまり良いコンディションではありませんでしたが、ケガ人もなく成功裏に収められました。これもひとえにスキー場、関係機関、役員の皆様のご努力の賜と深く感謝申し上げます。



中学校のスキー競技

中体連スキー専門部 深澤 貴久

はじめに

近年、中学校の学校管理下での部活動が大きく変わってきています。チームスポーツ、個人競技を問わず、運動部活動が盛んになる一方でスキー競技は競技者の減少が続き、スキー部を常設部として維持している学校が栃木県下には一つもない状態です。シーズンスポーツというその競技の特性が、学校の中でスキー部を維持することを困難にしています。そのため、スキー競技への理解はなかなか得られないのが現状です。さらに、中学校3年生においては、入試を控えた時期に行われるため、生徒達の大会の参加に難色を示す保護者も少なくありません。

競技人口の減少

この10年間で栃木県内の中学生のスキー大会への参加者は、減少の一途をたどっています。最盛期には男女併せて100名以上の競技者がいましたが、現在は男女あわせても40名ほどの競技者であり、県大会への参加者も非常に少ない状態です。クロスカントリースキーでは、その傾向が顕著に現れ、7年ほど前から女子選手の大会参加者はいません。

また、男子の競技者においても、平成21年度は2名という状況でした。

今後、この傾向は続くと思われます。スノーボードなどの新しいジャンルの出現や、シーズンを問わずに取り組めるスポーツが増えてきたことなどからも、今後、競技者を確保していくのは難しい状況が続くと予想されます。

指導者の不足

各中学校とも、スキー部を常設部として扱っているところはなく、その為、スキー部の専属の顧問もいないのが現状です。大会に参加するために、スキー経験のない教員が引率者としてつかねばならず、また、スキー経験があっても、競技経験、指導経験がない教員

第3章 専門部の歩み

が引率者としてつくことが多いのが現状です。大会期間中や練習中に選手にアドバイスや指示を与えることも困難であり、引率者は自分がゲレンデを降りることで精一杯の面も見られます。中学、高校で競技に親しんだ者が、指導者としてスキー部の顧問になり、選手を引きつけることができれば、状況は多少変わってくるだろうと思います。

スキーができる教員が、季節部のスキー部を担当したとしても、その教員は他の部活動、(例えば、野球やサッカー、陸上競技)などの顧問も兼ねていることが多く、スキー競技に参加する選手が練習を行う場に行くことも、他の部活動のかねあいから不可能に近いのです。

また、中体連のスキー専門部内も人材不足に苦しんでいます。現在の専門部内にはスキー競技経験者は一人もいません。大会に参加する選手が多い学校が、代表として事務局を務めているのが現状です。その為、スキー競技のルール・技術などを熟知している担当者も少なく、選手の競技力向上を図ることは困難に近い状況です。

連盟の協力

上記のような状況の中、この数年、スキー連盟競技本部の方々に多大なる協力をいただいています。栃木県中学校総合体育大会スキー競技会では、連盟の方々と共催という形をとらないと大会自体の運営ができない状況です。また、全国大会では、コーチを派遣してもらい、選手の指導にあたってもらっています。スキー選手としての心構えや技術的な面など、多くの点で連盟の方々の協力のおかげで、中学生がスキー競技に取り組んでいるのが現状であります。

全国大会において(記録の代わりとして)

上記のような状況の中、県内の中学生のスキー選手の全国大会での結果は芳しいものではありません。アルペンスキーに関しては、セカンドカットとなってしまう選手も多い現状です。クロスカントリースキーでは、いかにして二桁台に入るかということが、今後の課題となるでしょう。

第3節 教育本部の10年



教育本部の80年目

教育本部長 阿久津 順 夫

栃木県スキー連盟80周年を迎えるあたり、教育本部を担当させていただくことに重席を感じる現況であります。

1930年以来、多くの先輩諸氏が白銀色に燃やし続けた青春が、今日まで積み重ねられた日々は、自身の40年余りのスキー歴からも膨大なエネルギーを感じ得るものです。

特にこの10年の時は、スキー連盟は大きな環境変化がありました。所属する五つの組織が脱退を余儀なく去ったことは、個人としても残念でなりません。この現実起因するのは、生活環境の変化や高齢化等々多様でありましたが、県連としての支援もまた不足していたことは否めない反省材料であると思います。特に近年、指導員制度のあるスポーツ組織は、大きな打撃を受けたことも事実です。しかしながら、このような環境でも教育本部の事業活動は、各所属から選出された理事と部員の活躍により、スキー・スノーボード事業44、さらに北関東や全日本に係わる事業が12等、計56にも及ぶ活動を年間に遂行しています。これが教育本部事業の全てであり、私自身、誇れる理事部員と、自負を持ってます。

そしてこれからの10年を辿り、結果100年を夢に描きながら教育本部はどうあるべきか、みんなが集える楽しいスキーの現実にとどのような運営が良いのか、必要に迫られていると思います。本部の活動を維持発展させていくためには、80周年の経過からも人の繋がりこそ不可欠であります。本部の事業遂行は言うまでもなく部全体の情報交換であり、発信であり、共有することに期するものです。このスキー組織内にはあらゆる職業能力の方々が存在している世の中の最強軍団ではないでしょうか!!

教育本部もまた部員個々が有する能力が全てであり、実行力に起するものです。これら事業活動を実践していくためには、教育本部の全てを集結し、さらに情報発信の場が必要です。スキー連盟全体にも、時代が求める改革の条件と言っても過言では無いでしょう。80年の歴史からも先駆者が築き上げた伝統、将来を期する若い人達、そして現役、これら三者の接する場を作るあるいは接することのできる場があることが、私は100年の夢に繋がる要因となるものと感じえます。また、さらに楽しいスキー実現にみなさまからのご指導を幾重にもお願い申し上げます。

……誰もが気軽に立ち寄れる場所作りこそ、スキー連盟改革の根幹と感じえます……



技術員の10年

S A J ブロック技術員 磯 正 嗣

ブロック技術員としての10年と題し書かせて頂いたことに、感謝いたします。又、記憶が定かでない事と私的な感想を含む事も一緒

にご容謝願います。

さて、私達北関東ブロック技術員は現在18名おります。各人皆、地区を代表する指導者の集まりではあるが、皆さんもお察しの通り厳しい10年だったと感じます。行事の度に参加者の維持低迷を考え各行事に当たりました。しかし、これからはこの10年の思考を活かしスノースポーツの活性化に全員で取り組んで行きますので、今後共、ご理解とご協力を頂けますよう、宜しくお願いいたします。

年間行事については年鑑通りです。但し大きな行事については、その度に事前に打ち合わせ会議を開いているのが現状です。雪上は12月初旬の北関東ブロック技術員研修会に始まり、教育本部雪上会議の3日間で全員の技術的理解を確認し、各行事に別れて活動に当たって行きます。指導者研修会や各技術選大会、準指導員検定会等の行事は特に事前打ち合わせや会議が入念です。

皆様への技術研修と指導において、まず第一により良い表現です。観て解りやすく滑らなくてはなりません。2つ目は言葉です。解りやすく短かい言葉が求められます。3つ目は信頼される事です。いずれも当たり前の事ですが、多様なニーズに対応する為には、私達自らが常に自己研鑽を図り、自ら成長・発展しなければならない事だと思えます。上記の事がどの位、実施出来たのかは不明ですが、技術員としては常に向上しなければならない事が私達の役目だと思えますね。

準指導員、指導員の皆様においては研修会等で大変お世話になりました。研修会は全体と班別の2つに分かれますが、特に班別研修においては、私たち各講師も皆様から学ばせて頂いた事が多くあった事と思えます。私個人としても20代から最高齢者まで年齢に関係なく先生方と関わりを持たせて頂きました。スキーへの情熱は年齢には無関係で、もしかするとキャリアを積んだ先生の方がエネルギーを持っている気がします。私自身もその先生方から学んだ事が多いと思っています。それは技術的にも当然ですが、何より社会人として指導者としての在り方を学ばせて頂きました。ありがとうございました。これからも、多くの先生方に研修会に参加して頂き、皆さんでスノースポーツの明るい未来について、一緒に楽しく語り合い、研修できたらうれしい限りです。

準指導員検定会においては、毎年素晴らしい指導者が生まれスキー界の活性に役立っている事と思えます。この10年の合格者の記録は別記ありますので、ご参照ください。

私自身もこの検定会に関わらせて頂きました。この検定会は合格が目的ではありません。合格後、生涯においてどのようにスノースポーツと関わり、普及発展に貢献できるのかが、

第3章 専門部の歩み

り、現在では、カテゴリー別のコンペとなった。結果として、アルペンはより一層カーヴィング技術が洗練され、フリーは更に難易度の高いトリック技術を追求し、共にギャラリーを魅了するようになってきている。そして、準指導員制度が導入された頃から、指導法の本格的な見直しが行われ、様々な思考錯誤の結果、本年度は「スノーボード教程」も改訂された。スリップ→スライド→ホールドという発展的な技術理解を経る中で、誰もが最新のテクニックを追求するというワンパターン（ワンウェイ）ではなく、自分の技量や指向に合わせて、スキッピング・グライディング・カーヴィングなどの技法を選択しつつ楽しむという傾向に変化してきている。また用具の進化も著しく、一般ゲレンデに限らず、専用パーク（ハーフパイプ・キッカーなど）、オフピステ、パウダーゾーン、さらに手すりの上までが滑走するフィールドとなり、ジュニアからシニア層まで幅広い年代に受け入れられつつある。

指導者は、スノーボードを通してたくさんの人と感動を共有できる立場にある。多くの人々が、安全で快適なスノーボードを楽しむために、ルール・マナー、正しく適切な技術の普及を推進していくことが必要である。時代が変化し、スノースポーツの多様化が進んでも、根幹となっている「雪山で遊ぶ楽しさ」、そのための手段としての「技術の追求」は、普遍的なものである。しかし、温暖化による雪不足や、スノースポーツに関わる人数の減少、受傷者割合の増加など、スノーボード界の抱える課題は山積している。まずは、我々自身が「雪山での遊び」を心から楽しむスノーボーダーになること、生涯スポーツの一環として、「日常生活では味わうことのできない加速度運動の世界、無限に広がる素晴らしいスノーボートライフを、これからも一緒に楽しんでいこう!」という呼びかけで拙文を閉じたい。

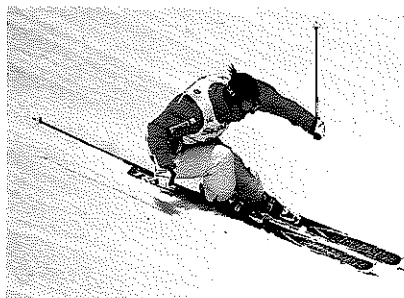


強化選手育成

教育本部 技術強化委員長 小林 英夫

スキーの楽しさ、スキーの難しさに魅了された沢山の選手たちと共に育んだ10年であったと思います。私自身もスキーに魅了された一人であります。諸先輩方の導きにより今日があり、その礎のもと、強化コーチとして指導に携わっていることは、私のスキー人生においてすばらしい出会いの日々でもあります。

長きにわたり、本県連のデモンストレーターが強化選手を兼任していましたが、平成15年に強化選手の一層のスキルアップと人材育成に力を入れることとなり、デモンストレーター制度を見直し強化選手の育成に取り組んできました。強化合宿では予選、北関東大会、全日本スキー技術選大会に向け、県内外スキー場で様々な形態の合宿を実施し、また、外部コーチによる強化合宿を開催してきました。外部コーチには、新潟県の元全日本スキー技術選手権大会チャンピオンの佐藤正明さんによるトップアスリートからの視点でコーチしていただき、いろいろな観点から指導いただいた事で、県連にとり大変有意義な3年でありました。ここ近年は、全日本スキー技術選手権大会において予選、決勝などで活躍できる選手が出てきたことは、喜ばしいことであります。今後は、選手個々のトータル的なスキルアップや、年間を通じての体力推進なども計画し、本県選手達を、今後も心の底から応援していこうと思います。



全日本技選に参加して

ハンターマウンテンスキークラブ 足助 未央



私は小学生から大学4年まで、競技スキーを続けてきました。結婚をして、栃木に来てから基礎スキーの世界を初めて知りました。初めて技術選に出場したときは、基礎スキーの知識はほとんど無く、競技時代の滑りをしただけで終わってしまいました。準決勝で敗退してから、滑れば滑るほど、スキーの奥深さを感じる基礎スキーの世界に魅力を感じるようになりました。

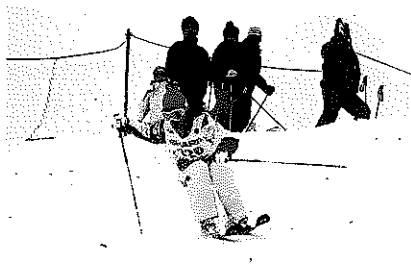
2・3年目は、ハンターマウンテンでインストラクターとして指導するようになり、スキーを言葉で表現することや、相手に伝わるように滑ることを学びました。その表現力と演技力が決勝進出に役立ったと思います。

競技スキーとの違いは、人の目にどう映るかであり、求められた滑りをしているつもりでは結果は出ず、明確に表現できなければ、まったく評価されません。雪質やバーンに対

しての技術の幅も必要になり、「これだ!」という答えがないことがとても難しいと思いました。ただ、技術選の滑りに関しては、競技時代の技術やスピード感がベースとなっていると思います。

競技スキーと基礎スキーの二つの世界を経験できたことは、私のスキー人生のなかでとても幸せなことだったと思います。スキーに対する考え方が大きく変わりましたし、滑れなかったバーンが攻略できた時は、スキーを始めたころの楽しさを思い出しました。

今後は、競技スキーと基礎スキーそれぞれの魅力や技術を、指導者としてスキーの普及活動に役立てていきたいと思っています。



新たなスタート



那須スキークラブ 針生 優希

平成16年に技術選初挑戦してから、早いもので7年も経ちました。1年目は右も左も分からず、お客さん状態だった全日本……。2年目・3年目は気持ちばかりが空回りしていて、技術が伴っていませんでした……。4年目・5年目のシーズンは、憧れの先輩である足助未央さんの決勝での華麗な滑り、活躍を見て感動し刺激を貰いました。そして、私もあの舞台で滑りたいと強く思いました……。

今まで破ることの出来なかった40位の壁（準決勝進出）を今年こそは!!と、強い思いで迎えた6年目のシーズン。今までと同じ事をしていてもダメだと思い、思い切って滑りのイメージを変えてみたり、自分の滑りや今までやってきた事に自信を持って大会に望みました。初日の予選二種目でいきなりミラクルが起きました。急斜面小回り種目で種目別1位を取ったのです。もともと得意種目ではありましたが、全日本の舞台で無名の私の滑りを評価して貰えた事がすごく自信に繋がりました。そして、念願の準決勝に進む事ができました。

40位の壁を破るまで6年も掛かりました。長かったけど、もう既に20位の高い壁（決勝進出）を破るために私は新たなスタートを切っています。





全日本スキー技術選手権大会を振り返って

宇都宮スキー協会 神山健樹

栃木県スキー連盟創立80周年おめでとうございます。

全国の舞台で戦うことをやめて、あっという間に5シーズンが経ちました。過去、全日本大会に9回の出場をしてきました。中でも長野県八方尾根スキー場黒菱ゲレンデの準決勝不整地種目は今でも思い出の一本です。

いま選手時代を振り返って思うことは、毎日一番にスキーのことを考えていたということでした。

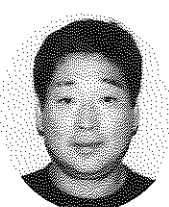
全日本で準決勝以上に進む為には、雪国選手以上のモチベーションが必要でした。目標を決め、計画を立てる。選手時代から心得ていたことが今の生活にも役立っています。一つのことを夢中になり一生懸命やってきたことで、多くの人たちに出会い、応援していただき、スキー技術の取得だけでなくそれ以上のことが手に入ったと思います。今では、多くの人との出会いが僕の一番の財産となっております。

またSAJデモンストレーターの認定を受けることができ、指導技術やスキーに対する考え方を学ぶことができました。

現在は、現役時代の経験を生かし指導者として活動していますが、今後も多くのスキーヤーとの出会いを楽しみにし、栃木県スキー連盟の発展とともにスキーを続け楽しんでいきたいと思っています。



準指導員検定会をふりかえって



教育本部理事検定部長 黒川 孝

教育本部理事検定委員長 入江 正夫

昭和31年に準指導員制度が発足し、栃木県においては昭和32年に日光湯元スキー場で第1回準指導員

検定会が開催されてから、平成22年2月27日～28日に開催された第54回準指導員検定会までの54年間で多くの指導者を輩出し、スキーの普及発展に大きく貢献してきた。

指導員数は平成4年に過去最高となる2769名が登録されたが、平成21年12月現在での登録者は957名と過去の最高登録者数を100として比較すると現在では35パーセント、おおむね1/3まで減少してきている。

過去10年間の準指導員検定会の受験者数、合格者数とB、C級検定会の受験者数、合格者を下記表1にまとめましたのでご参照ください。

表 1

準指導員	受験者数			合格者数		
	男	女	計	男	女	計
2001	54	8	62	30	4	34
2002	46	7	53	36	4	40
2003			35			22
2004			30	13	8	21
2005			46	22	6	28
2006			36	23	5	28
2007			18	11	2	13
2008	20	3	23	13		13
2009	15	9	24	8	4	12
2010	17	8	25	12	7	19

B級検定	受験者数			合格者数		
	男	女	計	男	女	計
2001	8	3	11	8	3	11
2002	5	1	6	5	1	6
2003	9	4	13	9	4	13
2004	10	0	10	10	0	10
2005	13	1	14	13	1	14
2006	6	2	8	6	2	8
2007	10	1	11	10	1	11
2008	4	1	5	4	1	5
2009	4	2	6	4	2	6
2010	12	2	14	12	2	14

C級検定	受験者数			合格者数		
	男	女	計	男	女	計
2001	26	4	30	30	4	34
2002			27	23	2	25
2003	17	3	20	17	3	20
2004	7	4	11	7	4	11
2005	17	2	19	17	2	19
2006	25	6	31	25	6	31
2007	14	3	17	14	3	17
2008	6	1	7	6	1	7
2009	8	2	10	8	2	10
2010	11	5	16	11	5	16

過去10年間の準指導員検定会の受検者の推移は、2001年の受検者数62名（男54名、女8名）に対し、2010年の受検者数25名（男17名、女8名）であり、受検者の減少が目立つ状況になってきている。平成19年の1級受検者数は129名、合格者39名（男35名、女4名）、平成20年の1級受検者数122名、合格者31名（男23名、女8名）と級別テストの状況はほぼ横ばいの状況が伺える。

近年、地球温暖化現象、少子化や趣味の多様化などにより若者のスキー離れの危機感を募らせている中、それに輪をかけるように経済状況の不安などスキー界を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあり大きな要因と考えられるが、私たち指導者が率先し一人でも多くの人たちに自然とふれあうスキーの楽しさ、スキー技術の向上による楽しさ、スキーでの仲間づくりなどスキーでしか得られない喜びを伝え、一人でも多くのスキーヤーにアプローチしながら、初心者から上級者までの多くの人たちにスキースポーツの魅力を伝えていきたい。

写真は、2010年度 第54回 ステージⅡ（準指導員）検定会の様子です。



検定会の様子



閉会式の受検者



磯主任検定員から合格者発表



手塚副会長から合格者への合格証の交付

下記年表は、過去10年間の検定会を表したものであり、表1とあわせてご参考ください。

第3章 専門部の歩み

準指導員検定会の歩み (2001年～2010年)

*10年間の準指導員検定会をまとめてみました。

2001年 第45回	平成13年3月9日～11日 会場 台鞍山スキー場 副会長 榎本建司・理事長 手塚義朗・専門員 阿久津順夫 責任者 教育本部長 石塚光男 担当理事 高松守一・黒川孝 現地総務 根本喜一・高橋秀夫 主任検定員 渡辺陽一 検定員 高松正二・斉藤伸幸・阿部富雄・磯政嗣・宇梶智久・浜野辰夫・松村照章・泉裕之・吉野哲也・山口昌利	2004年 第48回	平成16年3月5日～7日 会場 だいくらスキー場 県連役員 会長 荒井文男・理事長 高野孝夫 責任者 教育本部長 石塚光男 担当理事 高松正二 現地総務 高松守一・高橋秀夫 主任検定員 阿久津順夫 検定員 阿部富雄・吉野哲也・斉藤貴次・高根沢和彦・高野正基
受検者数 62名 (男子54名・女子8名)	合格者数 34名 (男子30名・女子4名) 合格率 54.8%	受検者数 30名	合格者数 21名 (男子13名・女子8名)
概況 初日雪、柔らかいゲレンデ状況、2日目青空の覗く天候となり、比較的天候に恵まれた検定会であった。		概況 受検者、サポーター、スキー場の協力で予定の日程で検定会が終了した。	
*指導員合格者 10名		*指導員合格者 8名	
2002年 第46回	平成14年3月8日～10日 会場 台鞍山スキー場 県連役員 会長 荒井文男・理事長 手塚義朗・専門員 阿久津順夫 責任者 教育本部長 石塚光男 担当理事 高松守一・黒川孝 現地総務 根本喜一・高橋秀夫 主任検定員 渡辺陽一 検定員 高松正二・斉藤伸幸・阿部富雄・磯正嗣・宇梶智久・浜野辰夫・松村照章・泉裕之・吉野哲也・山口昌利	2005年 第49回	平成17年3月4日～6日 会場 だいくらスキー場 県連役員 副会長 綱川千夫 責任者 教育本部長 石塚光男 担当理事 黒川孝・増渕築那夫 現地総務 高松守一・高橋秀夫 主任検定員 小林英夫 検定員 手塚克己・泉裕之・富山英幸・高根沢和彦・鎌田瑞祥
受検者数 53名 (男子46名・女子7名)	合格者数 36名 (男子32名・女子4名) 合格率 67.9%	受検者数 46名	合格者数 28名 (男子22名・女子6名)
概況 晴天に恵まれた絶好のゲレンデコンディションでの検定会であった。		概況 初日雪無風、2日目晴れの良好なコンディション検定会であった。	
*指導員合格者 7名		*指導員合格者 11名	
2003年 第47回	平成15年3月7日～9日 会場 台鞍山スキー場 県連役員 会長 荒井文男 責任者 教育本部長 石塚光男 担当理事 専門員 阿久津順夫 現地総務 高松守一・黒川孝・高橋秀夫 主任検定員 小山田正文 検定員 渡辺陽一・磯正嗣・泉裕之	2006年 第50回	平成18年3月3日～5日 会場 だいくらスキー場 県連役員 会長 荒井文男・理事長 高野孝夫 責任者 教育本部長 石塚光男 担当理事 黒川孝 現地総務 高松守一・高橋英夫 主任検定員 磯正嗣 検定員 吉野哲也・泉裕之・分田久貴
受検者数 35名	合格者数 22名	受検者数 36名	合格者数 28名 (男子23名・女子5名) 合格率 77.8%
概況 初日みぞれから雨に変わり、霧が発生してきたため3種目で終了。2日目時折強風が吹く中残りの種目を終了。この年は、指導適正面接を5人一組のグループ討議形式で実施した。		概況 初日、2日目とも締まったバーンの良好な検定会であった。	
*指導員合格者 11名		*指導員合格者 8名	

2007年
第51回 平成19年3月2日～4日
 会場 だいくらスキー場
 県連役員 会長 荒井文男
 責任者 教育本部長 石塚光男
 担当理事 黒川孝
 現地総務 高松守一
 主任検定員 泉裕之
 検定員 高根沢和彦・高野正基・鎌田瑞祥
 受検者数 18名
 合格者数 13名(男子11名・女子2名)
 概況 初日、2日目とも晴天に恵まれた検定会でした。

*指導員合格者 10名
 ◎第51回準指導員検定会から、単位制を導入。
 A単位(テール・コントロール技術)
 B単位(トップ&テール・コントロールの技術)
 C単位(理論)

2008年
第52回 平成20年3月1日～2日
 会場 だいくらスキー場
 県連役員 会長 荒井文男・専門員 阿久津順夫
 責任者 教育本部長 石塚光男
 担当理事 黒川孝
 現地総務 高松守一・桜井教
 主任検定員 篠原浩
 検定員 泉裕之・高野正基・荒川升吾
 受検者数 23名(男子20名・女子3名)
 合格者数 13名(男子13名・女子汚名) 合格率 56.6%
 概況 初日朝から降りしきる雪の中、時折視界不良、2日目晴天。
 この年から検定会が2日となった。

*指導員合格者 4名
 ◎第52回準指導員検定会から3日間を2日間の日程で行うこととなった。

2009年
第53回 平成21年2月28日～3月1日
 会場 だいくらスキー場
 県連役員 会長 綱川千夫・理事長 石塚光男・監事 長谷川好勇
 責任者 教育本部長 阿久津順夫
 担当理事 桜井教
 現地総務 高松守一・黒川孝
 主任検定員 毛塚克己
 検定員 篠原浩・高野正基・高根沢和彦
 受検者数 24名(男子15名・女子9名)
 合格者数 12名(男子8名・女子4名) 合格率 50.0%
 概況 2日間とも晴天に恵まれた検定会であった。

*指導員合格者 6名

2010年
第54回 平成22年2月27日～28日
 会場 だいくらスキー場
 県連役員 副会長 手塚義朗・監事 柴英雄・専門員 泉裕之
 責任者 教育本部長 阿久津順夫
 担当理事 入江正夫・黒川孝
 現地総務 桜井教・後藤伸一
 主任検定員 磯正嗣
 検定員 吉野哲也・富山英幸・岩淵一馬
 受検者数 25名(男子17名・女子8名) 合格率 76.0%
 合格者数 19名(男子12名・女子7名)
 概況 前日からの雨が心配されたが、当日は雨も弱まり予定どおり行われた。

*指導員合格者 9名
 ◎第54回検定会からステージ制に変わり、検定種目も大幅に変更された。
 ○ステージⅠ・認定スキー指導員(新設)
 ○ステージⅡ・公認スキー準指導員(既設)
 ○ステージⅢ・公認スキー指導員(既設)
 ○ステージⅣ・公認スキー専門指導員(新設)

B・C級検定会の歩み(2001年～2010年)

*10年間のB・C級検定会の役員、受検者数・合格者をまとめてみました。

2001年 (平成13年3月24日～25日)
 会場 ハンターマウンテン塩原スキー場
 県連役員 副会長 榎本建司
 検定責任者 教育本部長 石塚光男
 担当理事 高松守一
 現地総務 黒川孝・高橋秀夫
 主任検定員 高松正二
 検定員 磯正嗣・山野井紀泰
 受検者数 41名〔B級11名(男8名・女3名)・C級30名(男26名・女4名)〕
 合格者数 41名〔B級11名(男8名・女3名)・C級30名(男26名・女5名)〕

*A級検定員合格者数 3名

2002年 (平成14年3月16日～17日)
 会場 ハンターマウンテン塩原スキー場
 県連役員 副会長 榎本建司
 検定責任者 教育本部長 石塚光男
 担当理事 高松守一
 現地総務 高橋秀夫
 主任検定員 増淵築那夫
 検定員 高松正二・磯正嗣・阿部富雄・阿久津順夫
 受検者数 33名(B級6名・C級27名)
 合格者数 31名〔B級6名(男5名・女1名)・C級25名(男23名・女2名)〕

*A級検定員合格者数 1名

第3章 専門部の歩み

2003年 (平成15年3月22日～23日)
 会場 ハンターマウンテン塩原スキー場
 県連役員 副会長 榎本建司
 検定責任者 教育本部長 石塚光男
 担当理事 黒川孝
 現地総務 高松守一・高橋秀夫
 主任検定員 阿久津順夫
 検定員 毛塚克己・高根沢和彦・荒川升吾
 受検者数 34名〔B級13名・C級20名〕
 合格者数 34名〔B級13名(男9名・女4名)・
 C級20名(男17名・女3名)〕

* A級検定員合格者数 5名

2004年 (平成16年3月20日～21日)
 会場 ハンターマウンテン塩原スキー場
 県連役員 副会長 榎本建司
 検定責任者 教育本部長 石塚光男
 担当理事 萩原隆司
 現地総務 高松守一・高橋秀夫
 主任検定員 阿部富雄
 検定員 松村照章・高根沢和彦・荒川升吾
 受検者数 21名〔B級10名・C級11名〕
 合格者数 21名〔B級10名(男10名・女0名)・
 C級11名(男7名・女4名)〕

* A級検定員合格者数 0

2005年 (平成17年3月20日～21日)
 会場 ハンターマウンテン塩原スキー場
 県連役員 教育本部長 石塚光男
 担当理事 野城一宏
 現地総務 黒川孝・高橋秀夫
 主任検定員 泉裕之
 検定員 荒川升吾・友山英幸・高根沢和彦
 受検者数 33名〔B級14名・C級19名〕
 合格者数 33名〔B級14名(男13名・女1名)・
 C級19名(男17名・女子2名)〕

* A級検定員合格者数 5名

2006年 (平成18年3月25日～26日)
 会場 ハンターマウンテン塩原スキー場
 県連役員 副会長 手塚義朗・教育本部長 石塚光男
 担当理事 野城一宏
 現地総務 高橋秀夫
 主任検定員 泉裕之
 検定員 荒川升吾・友山英幸・高根沢和彦
 受検者数 39名〔B級8名・C級31名〕
 合格者数 39名〔B級8名(男6名・女2名)・
 C級31名(男25名・女6名)〕

* A級検定員合格者数 1名

2007年 (平成19年3月24日～25日)
 会場 ハンターマウンテン塩原スキー場
 県連役員 副会長 網川千夫・教育本部長 石塚光男
 担当理事 黒川孝
 主任検定員 手塚克己
 検定員 高根沢和彦・富山英幸・分田久貴
 受検者数 28名〔B級11名・C級17名〕
 合格者数 28名〔B級11名(男10名・女1名)・
 C級17名(男14名・女3名)〕

* A級検定員合格者数 3名

2008年 (平成20年3月22日～23日)
 会場 ハンターマウンテン塩原スキー場
 県連役員 副会長 網川千夫
 担当理事 黒川孝
 現地総務 桜井敦
 主任検定員 高根沢和彦
 検定員 荒川升吾・鎌田瑞祥
 受検者数 12名〔B級5名・C級7名〕
 合格者数 12名〔B級5名(男4名・女1名)・
 C級7名(男6名・女1名)〕

* A級検定員合格者数 2名

2009年 (平成21年3月21日～22日)
 会場 ハンターマウンテン塩原スキー場
 県連役員 副会長 高野孝夫
 担当理事 桜井敦
 現地総務 荒川升吾
 主任検定員 高野正基・高根沢和彦
 検定員 16名〔B級6名・C級10名〕
 受検者数 16名〔B級6名(男4名・女2名)・
 C級10名(男8名・女2名)〕

* A級検定員合格者数 0

2010年 (平成22年3月20日～21日)
 会場 ハンターマウンテン塩原スキー場
 県連役員 会長 網川千夫・教育本部長 阿久津順夫
 担当理事 野城一宏
 主任検定員 斉藤貴次
 検定員 高野正基・鎌田瑞祥
 受検者数 30名〔B級14名・C級16名〕
 合格者数 30名〔B級14名(男12名・女2名)・
 C級16名(男11名・女5名)〕

* A級検定員合格者数 0



指導者研修会と公認検定員クリニックにおける10年

教育本部理事 研修委員長 野城 一 宏

21世紀に入り早10年がたちました。この間スキー界もスキー人口の減少や景気変動の影響から、スキー場来場者の減少など関係者にとっては厳しい環境となっております。また、栃木県スキー連盟登録の指導者数も2001年の1010名から2010年には957名に減少するなど、誰でも冬になれば行う花形スポーツだった頃から大きく変化しております。

その様な中、教育本部指導普及部（研修委員会）としても、その歯止めをかけるべき方策のひとつとして、スキー界の普及・発展を担う指導員の方々が参加しやすい、また実のある研修会を目指し変化をして来た10年でもあります。

ここでは別表「参加人数からみる指導員研修会における10年の歩み」を参考にしながら、その変化を見ていきたいと思えます。

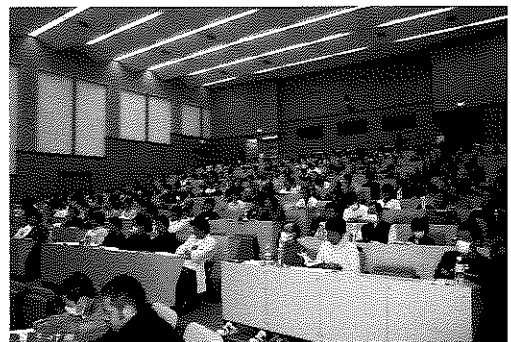
まずひとつ目の変化は、日程の変化です。古くからの指導者の方々はなつかしく思われるでしょうが、2003年度まで2泊3日で理論・実技を一緒に行っておりました。しかし04年度からは十分な理論研修時間の確保と参加者の負担軽減のため理論と実技を別日程にし、実技を土日での2日間と致しました。

また05年度から07年度までは理論研修会を2次まで、実技研修会を3次まで行っておりましたが、08年度からは理論を1次のみ、実技については3次の日光会場への参加者が少ないことから、残念ながら廃止となり2会場での実施となりました。

二つ目の変化としては、特別講師を招聘した理論研修会があげられます。05年度から平沢文雄氏、渡辺三郎氏、海和俊宏氏、森信之氏、丸山貴雄氏と毎年スキー界の有名人を招き個々のスキー理論や貴重な体験談を語ってもらい、教程だけでは得られない研修となりました。

三つ目の変化としては、07年度よりスキー学校教師研修会を同時開催することにより、検定員クリニックも含め毎年の研修テーマについて共通認識を持つことにより高い質の確保を目指しております。

以上、研修委員会と致しましてもスキー界の変化に合わせ、また参加者のニーズに合った質の高い研修会の運営に努めてまいりました。参加者の推移をみる上では減少傾向は続いておりますが、お陰様で県外からの参加者も年々増加しております。また、高齢の参加者も多く、この10年間でカービングスキーを履きこなすその意欲と向上心には感銘を受ける次第であります。



第3章 専門部の歩み

スキーの楽しさは今も昔も変わりません。指導者の皆様方には、一人でも多くの仲間を誘って研修会の参加はもちろん、スキー場へ足を運んでいただければと願っております。

最後になりますが、毎年シーズン初めの降雪の少ない中会場をご提供していただいておりますハンターMt塩原様、ハイシーズン中にも関わらず会場をご提供していただいておりますMtジーンズ様、また各スキー場関係者の皆様方には末筆ながらお礼申し上げます。

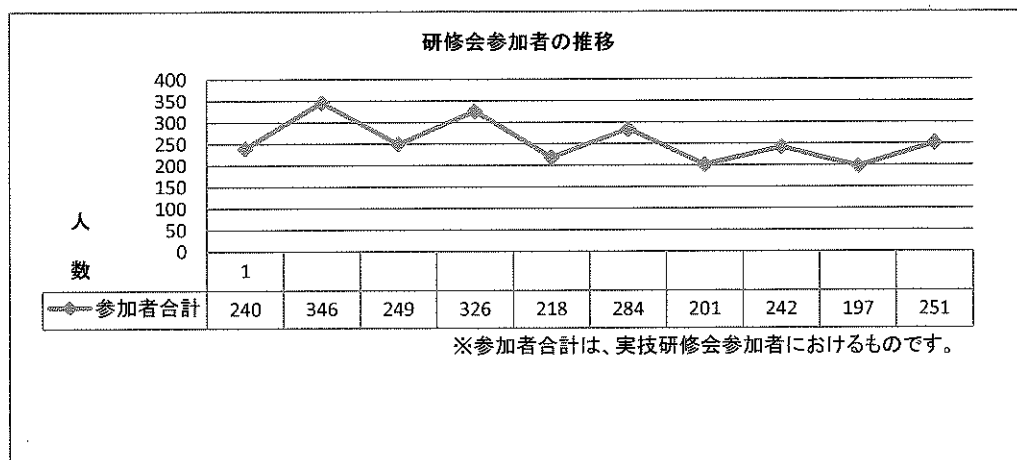


参加人数からみる指導者研修会における10年の歩み

教育本部理事 研修副委員長 谷津 三喜夫

年度	回次	期日	会場	参加人数	
				研修会	うちクリニック
2001	スキー学校	平成12年12月14日～16日	ハンターマウンテン塩原	44	35
	第1次	平成12年12月22日～24日	羽鳥湖スキー場	105	76
	第2次	平成13年1月6日～8日	日光湯元スキー場	91	61
			合計	240	172
2002	スキー学校	平成13年12月14日～16日	ハンターマウンテン塩原	53	43
	第1次	平成13年12月21日～23日	羽鳥湖スキー場	134	109
	第2次	平成14年1月11日～13日	日光湯元スキー場	96	76
	第3次	平成14年3月22日～24日	Mt.ジーンズスキー場	63	53
		合計	346	281	
2003	スキー学校	平成14年12月13日～15日	ハンターマウンテン塩原	49	34
	第1次	平成14年12月20日～22日	羽鳥湖スキー場	116	70
	第2次	平成15年1月10日～12日	Mt.ジーンズスキー場	47	30
	第3次	平成15年3月14日～15日	日光湯元スキー場	37	24
		合計	249	158	
2004	理論	平成15年10月26日	とちぎ健康の森	211	
	スキー学校	平成15年12月5日～7日	丸沼高原スキー場	61	42
	第1次	平成15年12月20日～21日	羽鳥湖スキー場	172	146
	第2次	平成16年1月10日～11日	Mt.ジーンズスキー場	48	39
第3次	平成16年3月12日～14日	日光湯元スキー場	45	33	
		合計	326	260	
2005	理論	平成16年11月14日 特別講師:平沢文	今市青少年スポーツセンター	142	
	理論2次	平成16年11月27日	今市青少年スポーツセンター	69	
	スキー学校	平成16年12月11日～12日	ハンターマウンテン塩原	39	29
	第1次	平成16年12月18日～19日	グランディ羽鳥湖	125	75
第2次	平成17年1月8日～9日	Mt.ジーンズスキー場	28	21	
第3次	平成17年3月11日～13日	日光湯元スキー場	26	20	
		合計	218	145	
2006	理論1次	平成17年11月6日 特別講師:渡部三則	とちぎ健康の森	201	
	理論2次	平成17年11月20日	今市青少年スポーツセンター	89	
	スキー学校	平成17年12月10日～11日	ハンターマウンテン塩原	54	46
	第1次	平成17年12月17日～18日	ハンターマウンテン塩原	180	137
第2次	平成18年1月14日～15日	Mt.ジーンズスキー場	32	24	
第3次	平成18年3月11日～12日	日光湯元スキー場	18	12	
		合計	284	219	
2007	理論1次	平成18年11月19日 特別講師:海和俊	とちぎ健康の森	159	
	理論2次	平成18年11月26日	今市青少年スポーツセンター	65	
	第1次	平成18年12月16日～17日	ハンターマウンテン塩原	155	96
	第2次	平成19年1月13日～14日	Mt.ジーンズスキー場	33	18
第3次	平成19年3月10日～11日	日光湯元スキー場	13		
		合計	201	114	
2008	理論	平成19年11月24日 特別講師:森 信之	とちぎ健康の森	249	
	第1次	平成19年12月15日～16日	ハンターマウンテン塩原	193	143
	第2次	平成20年1月12日～13日	Mt.ジーンズスキー場	49	35
		合計	242	178	

2009	理論	平成20年11月22日	特別講師:丸山貴	栃木県総合教育センター	191	
	第1次	平成20年12月13日～14日		ハンターマウンテン塩原	159	96
	第2次	平成21年1月17日～18日		Mt. ジーンズスキー場	38	22
				合計	197	118
2010	理論	平成21年11月28日		栃木県総合教育センター	253	
	第1次	平成21年12月12日～13日		ハンターマウンテン塩原	205	155
	第2次	平成22年1月16日～17日		Mt. ジーンズスキー場	46	31
				合計	251	186



※2002年度から、研修会を3次までとし、2007年度まで行いました。

※2004年度から、理論研修を別日程とし、実技研修会を従来の3日間から2日間へと変更しました。また、2005年度から2007年度までは、理論研修会を2次までとし、1次研修会には、スキー界における有名人を特別講師として招き、スキー技術を語ってもらっています。現在も継続しています。

※2007年度より、スキー学校研修会を同時開催するようになり、現在では、理論研修会を1次、実技研修会を2次まで開催し、幅広くスキースポーツの真価を伝える「指導員」活動の充実に資するよう努力しています。



指導者研修会（実技第1次）21年12月

認定スキー指導員第1期認定者の声

私のスキー人生と今後の活動

HOKUTO S.C 野中 茂

私が初めてスキーというものをつけて斜面を滑り降りてから、かれこれ40年にもなります。19才の時でした。まだスキーブーツが革靴の頃です。気の遠くなる程の思いがします。ですからゲレンデの40年のスキーシーンを見てきた訳です。好奇心旺盛だった私は、スキーだけでなくスノーボードの初期の頃のスケボーの様な動きをするスノボ?等も体験し、雪山で遊ぶ楽しさを味わったものです。

妻と女の子二人の家族がいき、当然のようにスキー一家となり、娘はアルペンスキー競技に惹かれていき、全国のスキー場へと行くようになりました。娘達の成長をスキーと共に楽しみ歩んで来て今、何となく役目が終わった気持ちになっていた時に、子供達にスキーを教える機会に恵まれたのです。スキー教室に来る子供達と、娘達の思い出が頭の中で駆け巡り、私は再び子供達とスキーを楽しむ喜びを感じる様になったのです。私は今後も山を楽しむという自分の信念の基に子供達と触れ合っていきたいと思っています。

これから望まれる指導者について

宇都宮スキー協会 石井 克典

これからのスノースポーツの普及と振興のためには、多様なニーズに的確に対応できる指導力を身につけた指導者が、これからの望まれる指導者なのだとしてスキー教程を読んで理解しました。

私は大切だと思うのは、安全への配慮、注意喚起やマナー、エチケットを身につけさせることは勿論のこと、何よりも指導者がコミュニケーションスキルを身につけることによって、プレイヤーのやる気と自立心を育て、プレイヤーが明確な目標や技能の向上心を持つよう手助けすることだと思います。

今後、各講習会への参加や書籍類での勉強、クラブ活動での練習などにより、指導に必要な知識、技能を身につけ、多くの人にスキーの楽しさや奥深さを伝えていきたいです。

近年の気象環境の変化について

大田原スキークラブ 角田 昌 男

私の職業は農業です。果樹栽培専業で、梨と桃が主品目です。近年は夏は異状高温、冬は暖冬になり易く、これまでの気象とは明らかに変化しています。夏の異状高温は果実に果肉障害を発生させたり、暖冬は病気の越冬や、害虫の越冬を助長させる等、栽培をむずかしくする要因が多くなり、適地適作がおびやかされる状況になりつつあります。今CO₂削減が叫ばれてますが、なかなか何をしたいのか分からないのが現実です。

私の家族は全員スキー、スノーボードが大好きです。スノースポーツをしたいがために、1年間働いているという事を、常々周りの人に話すことも多くあります。

近年の気象変化は、今年はちょっと違いますが、雪があまり降らない冬を招くようになりました。趣味のスノースポーツをこれからもずっと続けられ、生業である農業も安定して続けられる、そんな環境である四季であってほしいものです。

スキー人口拡大に貢献

那須塩原スノースポーツクラブ 小 林 一 恵

「スキーは楽しく」とよく言われていますが、やもすると「ショートターンはこう」「ロングターンはこう」といった枠にはめてしまう傾向があります。

一面では技術指向の人達に向けた指導を行ない、他方では自由にスノースポーツを楽しみたい人達には、安全で快適に過ごせる指導を行い、スノースポーツの裾野を拡大できるのではないのでしょうか。

よくピラミッド型の技術体系を着実に地域に根づかせることで、裾野を拡大できると言われているが、技術面のみが叫ばれ、楽しく自由に滑る観点が欠落しがちだと思います。

その様な観点から、楽しく自由に滑る為に必要な観点到った指導も必要かと思われま

す。



スキー技術選手権のあゆみ

教育本部理事 大会委員長 新井和夫

スキー技術選手権は今年で第47回目を迎えた。ちょうど10年前の第37回（約260名）をピークに参加者は右肩下がりで、この創立80年記念大会では男女合せて約150名迄に減少している。これは近年の参加選手の状況から見ても、経済状況や若年世代のスキー離れの影響が出ていることが伺える。しかしながら教育本部としては、このままではスキーの普及発展が衰退してしまうため、この状況を改善して盛り上げていかなければならない。

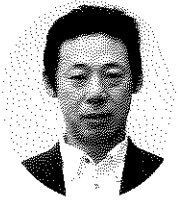
そこで新たな施策として、栃木県内のスキー環境の活性化を図り、普及発展に繋げていくため、オープンマスターズスキー技術選手権、オープンスプリングスキー技術選手権を行うことにしました。この新たに始めた事業について述べていきます。最初にオープンマスターズスキー技術選手権は今年が第8回目で、そのうち第1回目から第5回目までエーデルワイスで行われた。第6回目から参加者の拡大も考慮し、会場をハンターマウンテン塩原に移すことにより、今までの2倍の100名以上と確実に増やしてきている。参加者は地元栃木を中心に茨城、埼玉、千葉、群馬、福島と年を追うごとに参加県の範囲も広がっている。競技種目は整地大回り、整地小回り、整地総合滑走、整地中回りの4種目で、一般的に親しみやすい種目にし、マスターズに優しくない不整地小回りは除いている。技術的には最新の技術を駆使して滑る各県現役の選手から、生涯スポーツとして行っている選手まで様々です。また第1回目よりDJを導入して選手名やエピソードを紹介している。また、MCには阿久津本部長をお願いして、毒舌を交えながら会場の盛り上げに寄与していただいている。今後も年を重ねるごとに大会のクオリティーを上げて県連を盛り上げていきたい。

次に今年で第2回目となるオープンスプリングスキー技術選手権が開催に至るまでの経緯として、選手は栃木県スキー技術選手権が終了して予選を突破した選手は全日本スキー技術選手権大会に進み新たなモチベーションで望めるが、それ以外の選手また北関東スキー技術選手権が終了した選手は2月上旬でシーズンの公認大会がすべて終了してしまうことになる。これでは選手のモチベーション維持や選手強化の観点から見ても何らかのアクションが必要となってくる。そこで新たな大会が開催されたのです。競技については1日の大会なので4種目で整地大回り、整地小回り、整地総合滑走、不整地小回りです。バーン状況は2回とも3月末の大会として固くしまった状況となり、選手のエッジコントロールをしっかりと見られ県予選とはまた違った感じで、選手個々の対応能力が試された良い大会になりました



た。今後は、この2事業も他県に誇れるスキー技術選手権になるように中身を充実させて進化させていきたい。

以上の新規2事業から見えて来ることは、その現状に合う柔軟性に富んだ考えを実行し、本質を忘れずに取り組んでいく事がこれからのスキー連盟発展の鍵になるでしょう。



全日本スキー技術選手権大会を振り返って

SAJ専門委員 小林 英夫

私にとって、過去10年間の全日本スキー技術選手権大会は、栃木県選手団の監督としてたずさわってきました。その中で多くの選手と接してきました。勿論、全日本の選手権大会なので優勝を目指し、また一つでも上の順位をと思って大会に望むわけですが、環境が整った雪国の選手達と対比してしまうと、最初のベースの差を、私も、それ以上に選手本人が感じざるをえない状況がありました。選手達の性格も様々で、闘志を前面に出す選手や内に秘める選手、大会が近づくと普段より社交的になる選手や自分の殻に閉じころうとする選手、緊張を緩和するために普段より深酒をして二日酔いになってしまう選手、食が徐々に細くなりパワーが出せなくなる選手、自分自身を自分でコントロールしようとする選手、反対に他人にそれを求めようとする選手等々。

また、前日のトレーニングでパーフェクトな滑走が出来るまで止めない選手、反対にもう少し欲を出しあと一点でもと思ってもらいたい選手、挙げだしたら切りのない様々な選手たちと接してきました。そんな中で栃木県スキー連盟にとっても、また選手にとっても、そして私にとって三者とも満足できた結果が出たタイミングがありました。その一人は、2004年、2005年に準決勝に進出した神山健樹君。その次に、出身地は新潟県ではありますが、心は栃木県民の足助未央さん。3回全日本に出場し初回は準決勝、2回目は見事9位、3回目も決勝進出と当県にとって歴代最高位を記録しました。準決勝敗退してしまった2006年の元旦から半年間を、夫の彰伸君と共に、自分の目標達成のためにニュージーランドにスキー留学をして、翌年にすばらしい記録を達成しました。そして、近年では針生優希選手が着実に力を着け、2009年には準決勝に進出しました。針生選手にとっては全日本出場6年目の成果となりました。

全参加選手がいきなり成績を出すことは、大変なことと思われませんが、今後は私達コーチ陣も選手達がより今以上の成績を出すためのプロセスは何かを、選手一同と同じ温度で確認しあうことが必要と思われま



す。そして一番大切なことは、選手個々の気持ちを、より深いところまで把握し、選手達と平常心で向かい合う事だと思います。

未来永劫 栃木県スキー連盟の繁栄を記念して



北関東スキー技術選手権 ～記憶に残る名シーン～

教育本部 技術強化委員会チーフコーチ 齋藤 貴次

こんな事を書くも熱心なスキーヤーにお叱りを受けるかもしれないが、私が長い間スキーを飽きる事無く続けていられる理由のひとつに季節性がある、特別な努力をしなければ冬にしか出来ないところがとても関係していると思います。だからスキーをずっと大好きであるためには、本来シーズンオフにスキー関係の原稿を書くなんでもってのほかなのですが、いつでも思い出す事の出来る名シーンが北関東の技術選手権にはあります。

ありがたい事に私は、ブロック技術員になった最初のシーズンからコーチや監督、ジャッジとして北関東スキー技術選手権に携わる事が出来ているのですが、その中で思い出の名シーンを書いていきたいと思っています。

その年の不整地小回りは尾瀬岩鞍スキー場エキスパートコース上部の急斜面で行われた。出だしはやや浅めのコブが、そして終盤不規則で深いコブが並び多くの選手が終盤のコブで失敗していた。そんな中、神山健樹選手が見事な滑りで最後まで危なげなくゴールしてそれまでの最高点をたたき出す。そのあと、コブの名手、児山将之選手が滑らかに滑り出す、彼は気合が入りすぎるとオーバースピードで失敗してしまうようなとても日本男児的などころがあるのでこわいのだが、終盤の皆が失敗している大きなコブでやはり大きく跳ばされた。しかし、次の瞬間跳ね上げられたトップを瞬時に下げ、するりとターンしてゴールに滑り込みどよめきのなかこの種目最高点を出した。結果この不整地小回り1位に児山選手、1点差の2位に神山選手の見事なワンツーフিনিッシュだった。この年、神山選手は北関東初優勝だった。次の年、神山選手はベテランらしく1種目もトップを取らずに安定した滑りで2連覇を達成した。

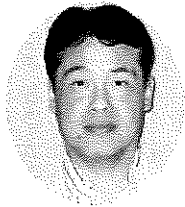
足助未央選手がレーシングのテクニックをもって参戦し初年度から優勝でポテンシャルの高さを見せたが、夏場から技術選のためのトレーニングを積んで臨んだ2年目の大会の滑りは見事だった。特にエキスパート下部、通称第7でのカービング系中まわりの種目では、男子よりも誰よりも早い谷まわりの捉えで滑ら



かな回転弧を描き、まさにスキーに命をあたえた滑りで男女あわせての種目最高の滑りだった。

いつも元気いっぱいの滑りでわかせてくれる針生優希選手が、元気にうまさをプラスして昨シーズンは優勝してくれた。

そして、川口悟選手の不整地小回りは伝説になるでしょう。これからも栃木県選手の北関東スキー技術選手権での活躍を楽しみにしています。毎年多くのドラマとハイパフォーマンスが繰り広げられます。ぜひみなさんも尾瀬岩鞍へ応援に来てください。



県技選をふり返って

教育本部 技術強化副委員長 篠原 浩

栃木県スキー連盟創立80周年、誠におめでとうございます。この節目の年をスキー連盟の一員として迎える事が出来て光栄に思います。

私事ではございますが、私がブロック技術員の任について6期12年が経ちました。この間にも皆様もご存じの通りスキー用具は進化し続け、止まるところを知りません。それに対応するようにスキーの技術面においても進化し続け、もっとも大きい変化は近年のコブ斜面の滑走技術に関してではないでしょうか。

この話題については他の方に譲る事にしまして、今回私は他の所に注目してみました。それは本県スキー技術選手権大会で起きたある出来事です。

ご存じの通り本県スキー技術選手権大会は、上位大会である全日本スキー技術選手権への本県代表選手を決める予選会も兼ねており、毎年本県を代表する選手の方々が全日本への出場権を賭けて参加する大会であります。

この大会を通して近年、私は女子の成績についてある変化に気が付きました。ある年を境に、女子の最高得点が男子の最高得点を上回ったという事です。これまでの女子の優勝者の総合得点と男子の得点を見比べると、第41回大会では男子の10位相当、第42回大会では9位相当という具合に、男子の得点と比べるとやや下回る事が当たり前でした。

しかし、平成18年に開催された第43回大会で足助未央選手が出場すると、状況が一変しました。初出場のこの年にいきなり初優勝し、しかも男子の得点と比べると四位相当という成績を出しました。次年度の第44回大会では、とうとう男子の優勝者の得点を上回るという現象がおきました。

足助未央選手は、全日本大会でも決勝9位という立派な成績を残しましたが、この足助未央選手の活躍で、技術選に参加する女子の意欲高揚にかなりの影響があったのではないのでしょうか。あれから4年を経過した第47回大会でも、男子の得点を女子が上回るという

第3章 専門部の歩み

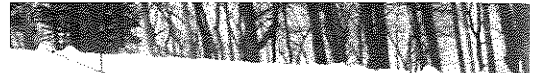
現象は続いています。男子にとっては不遇の時代かもしれませんが、いずれ必ず底力を発揮し巻き返すことでしょう。女子の元気に負けずにお互いに切磋琢磨し、技術選を盛り上げていていただきたいと思います。

最後になりましたが、栃木県スキー連盟の益々の発展をご祈念申し上げます。

＝ オープンスプリング技選スケッチ No.1 ＝ (2010.3.28)



開会式



前走 2010全日本技選1位 丸山貴雄選手



スタートを待つ



スタートを待つ



マスターズ技術選

SAJ専門委員 泉 裕之

マスターズ技術選は、平成15年2月、会場をエーデルワイススキーリゾートにて、その第1回大会が開催されました。

当時のスキーを取り巻く環境を顧みますと、バブル景気崩壊以降に始まったスキー人口の減少に、全く歯止めが掛からず、スキー産業全体が低迷を続けておりました。また、少子高齢化が顕著となり、若年人口そのものが減少する中、「遊び」の多様化等様々な要因も相まって、若年層の新規スキー参入者がなかなか見いだせない時期でした。

私どもスキー連盟においても、級別テストや準指導員受検者、並びに技術選参加者の減少が著しくなり、その打開策が急務となった時期と記憶しております。

そのような状況下ではありましたが、仕事を全うし定年退職を迎えられた年代、いわゆる“シニア層”については、唯一、スキーを新たに始める方々が増える傾向にありました。事実、平日のゲレンデでは、そのような“シニア層”のグループがあちらこちらで見かけられるようになりました。

スキー競技においては、以前より、年齢別のクラスを設定したマスターズ大会が開催されておりました。我々教育本部でも、そのような大会を開催して、“シニア層”の皆様、また、以前は技術選に参加していたが今は現役を引退されたというような皆様に、再びスキーへの情熱と目標を持っていただき、楽しんでいただこうという気運が高まりました。そこで、他県に先駆けて「マスターズ技術選」が開催される運びとなりました。

以降第5回大会まで、エーデルワイススキーリゾートにて毎年50名程度の参加をいただき開催されてきましたが、平成20年の第6回大会において、この大会は大きな変革期を迎えることとなりました。

第6回大会は場所を本県最大規模のハンターマウンテン塩原に変更し、競技コートも2コート、審判員も2班体制として、内容の充実を図りました。更に、過去5大会は県連所属会員のみが参加対象であったのに対し、他県連所属、連盟未加入者にも参加していただく“オープン化”を実施いたしました。

その結果、県内参加者に加え、茨城、埼玉、神奈川、千葉各県から参加をいただき、初めて参加者数が100人を突破いたしました。平成22年の第8回大会においては、県内はもとより、1都1府9県より総勢129名が参加する大きな大会となり、皆様のご協力のおかげで成功裏に終了いたしました。

参加された選手の皆様にご承知とは思いますが、この大会の大きな特徴の一つとして、MCの設置があげられます。“全日本スキー技術選”とまではいきませんが、競技コートには賑やかな音楽が流れ、阿久津教育本部長による“毒舌MC”が大いに大会を盛り上げています。1月に実施される全日本予選となる技術選にはない独特の雰囲気醸し出して

第3章 専門部の歩み

います。

スキーは年齢を重ねてもできる生涯スポーツです。“体力”は減退していきませんが、“技術”は向上するのみです。皆様、ぜひ、この“オープンマスターズ技術選”に参加して、この雰囲気を味わい、思いっきり楽しみ、ご自分の技術を試してみたいかがですか？私共は最高の舞台を用意して皆様をお待ちしております。

最後となりましたが、技術選開催にあたりご協力いただきました関係者の皆様に感謝の意を表しますとともに、今後この大会がより発展することを祈念いたします。

—— オープンマスターズ技選スケッチ No.2 ——

(2010.3.28)



ジャッジ



ギャラリー



閉会式



女子表彰



スペシャルトレーニング

教育本部理事 指導普及部長 櫻井 敦

“特別講習会”として、記念すべき第1回目の事業が始まりましたのが、ちょうど10年前の2000年（平成12年）になります。2003年までは、2日～3日間で開催し、2004年以降は、全て日帰りとし、複数開催となってきました。名称も“デモと滑ろう…”や、“技術向上のための…”等、サブタイトルを変えながら、2006年に“スペシャルトレーニング”という名称に落ち着き本年に至ります。

スキー人口は、1992～3年のピークから激減を始め、現在に至っています。

スキーブームの低迷に合わせるかの如く、この10年間で、協会単位でのバッチテストや、クラブ単位での合宿、トレーニング等が非常に少なくなりました。いわば、以前クラブや協会で行っていた事を県連盟が行っていると言っても過言ではないと思います。

そして、現在ではニーズに合わせた非常に柔軟性のあるイベントに成長しました。

たとえば、12月シーズンインの“初滑りスペシャル”とし、足場固めから入り、技術選手権出場者、指導員準指導員受検者、プライズテスト受検者、1級2級受検者、さらに近年では、オープンマスターズ技術選手権出場者、そして最後は、“コブスペシャル”と、目的に応じた班編成を工夫し講習会を行っています。

この10年間で、参加者総数610名、講師数103名の方々が、このイベントを支え、“スキー”という共通の喜びを共有できたこの価値観こそが、教育本部の、次の10年間で礎になる事と確信する次第です。参加協力の方々、大変ありがとうございました。

年度	タイトル（開催形態）	参加者数	講師数	担当理事
2000	特別講習会（2日間）	36名	4名	須藤 秀
2001	特別講習会（3日間）	52名	8名	高松 正二
2002	デモンstraterと滑ろう特別講習会（2日間）	36名	5名	高松 正二
2003	技術向上のための特別講習会（1回）	13名	2名	高松 正二
2004	技術向上のための特別講習会（2回中1回中止）	13名	3名	高松 正二
2005	技術向上のための特別講習会（2回）	37名	6名	高松 正二
2006	スペシャルトレーニング（4回）	83名	14名	高松 正二
2007	スペシャルトレーニング（5回）	111名	20名	高松 正二
2008	スペシャルトレーニング（5回）	109名	19名	高松 正二
2009	スペシャルトレーニング（3回）	72名	12名	黒川 孝
2010	スペシャルトレーニング（3回）	48名	10名	櫻井 敦

協力講師：高松正二、阿久津順夫、小林英夫、神山健樹、吉原史明、泉裕之、渋谷義智、川俣聖樹、手塚さおり、野中克利、竹内直美、四谷健二、斉藤貴次、高野弘基、児山将之、岩渕一馬、篠原浩、山口昌利、松本忍、増淵耕樹、山洞雅彦、玉田政己、塩沢弘司、高野正基、山田知広、針生優希、分田久貴、高根沢和彦、新田義之、原克仁、加藤康雄、菊地浩

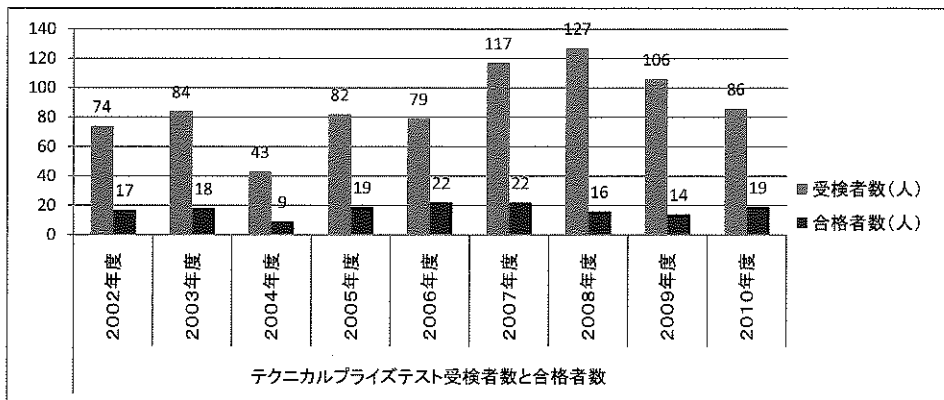


プライズテストの追憶

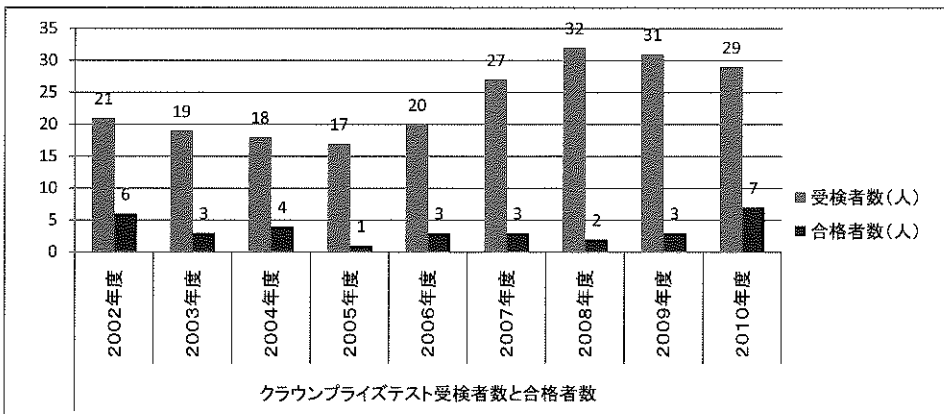
教育本部理事 プライズテスト委員長 塩澤 弘司

10年前のプライズテストの種目を覚えていますか？と言われてもなかなか思い出せる人は少ないのではないのでしょうか。10年前プライズテストの種目は、大きく実践種目講習テストと規定種目テストを2日間にかけて検定が行われておりました。実践種目講習テストとは総合技能について講習内検定を1日目に行い、2日目には規定種目テストの不整地大回り・整地小回り・不整地小回り・総合滑降・制限滑降（クラウンプライズのみ）の5種目（テクニカルプライズは4種目）の検定を行い、2日間の総合評価にて検定が行われておりました。

テクニカルプライズテスト受検者数と合格者数									
	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
受検者数(人)	74	84	43	82	79	117	127	106	86
合格者数(人)	17	18	9	19	22	22	16	14	19
合格率(%)	23	21	21	23	28	24	13	13	22



クラウンプライズテスト受検者数と合格者数									
	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
受検者数(人)	21	19	18	17	20	27	32	31	29
合格者数(人)	6	3	4	1	3	3	2	3	7
合格率(%)	29	16	22	6	15	11	6	10	24



しかし、検定に2日間を必要とするシステムは受検者の負担も大きいことから、何回もチャレンジできるように1シーズン有効の事前講習修了書を発行し、間口を広げたのが2004年度の検定制度変更でした。その変更となった2004年度から2009年度までの種目がクラウン・テクニカルプライズ共に整地大回り・不整地大回り・整地中回り・整地小回り・不整地小回り・総合滑降の6種目で6年間検定が行われてきました。

そして今年度（2010年度）より整地中回り種目が無くなり、更にチャレンジし易いように成りました。しかし、プライズテストの難易度は10年経っても変わらないと言えるのではないのでしょうか。

次に栃木県連主管による10年間のプライズテストの受検者数と合格者数について表にまとめさせて頂きました。2004年度に大きく受検者数61名と減少しましたが、その年以外については2008年度の受検者数159名をピークに毎年約100名以上の受検者の参加を頂いておりました。近年のスキー人口の減少を考えると、若干の減少気味にあるものの、根強い人気を感じさせられました。

合格者数についてはテクニカルプライズでシーズン合格者数約20名（約2割）と少なく、クラウンプライズでは更に少ない合格者数で2名から3名（約1割）と難易度の高さを感じましたが、2010年度は例年になく多くのクラウンプライズテスト合格者（受検者29名中7名合格）が誕生致しました。

近年、マテリアルが進化しそれと共にスキーヤーの技術的対応も変わってきたのではないのでしょうか。ほとんどの受検者は種目ごとにスキーの板を変え、スキー操作を大きく変えなくとも、スキー板の特性を生かせられれば、スキーヤーの運動を導き出してスムーズなターン運動と落下運動を可能にしてくれると言える。また技術力が向上すればするほど、滑走スピードを高めたり、よりシャープなターン弧の連続や、整備されたスキーゲレンデだけでなく、新雪・深雪・悪雪等あらゆる斜面を滑走する技術が身につけているはずである。プライズテストではこの技術力が必要と考え、2010年度から検定バーンの設定を整地からナチュラルバーンとなったのも技術要求のあらわれと言える。このマテリアルの進化の対応と、スキーヤーの条件対応技術力が合格のカギとも言えるのではないのでしょうか。

今後さらに基礎スキー検定の最高峰であるプライズテスト合格者が増えることを期待したいと思います。



公認スキーバッジテストの10年

教育本部理事 庶務企画委員長 後藤 伸一

スキー用具の大革命と言われたカービングスキーの定着を見たこの10年ですが、マテリアルの変化により検定内容にも大きな変更が

見られました。

教程において、「セーフティ」、「コンフォート」、「チャレンジ」などの用語が用いられ、本来、指向を示す用語が、「スキッディング要素」や「カービング要素」などの技術用語との混在により、様々な解釈や議論がなされました。さらにはトップコントロール、テールコントロール、トップ&テールコントロールなどへの用語としての移行とともに、スキー板そのものの質の向上を伴いつつ、現在に至っています。

2000年代当初には、「技能レベルの位置が継続して認識できるように」との観点から、5級からクラウンプライズまで一貫したポイント（5級は50ポイント〜クラウンは80ポイント）で到達度を示し、また、技能の習熟度を主な基準とする5級から3級までを対象に講習中に実施する「実践種目講習テスト」が導入され、2級以上のテストでは講習全体を通して総合技能を評価する「実践種目講習テスト」とテスト会で実施する「規定種目テスト」により合否判定が行われるように変更されました。

ジュニアテストに関しては、前述の「基礎スキー技能テスト」にリンクする新たな内容



として、「子供たちが楽しみながら競い合えるテスト、シンプルなテストシステム、公平で明確な判定」などの観点から、1級から6級までのすべての検定内容を「制限滑降」で行うこととされ、これまでにない大改正が行われました。

さらに2010年代には、再び大きく検定内容の変更が行われ、スキー人口の減少が叫ばれる中、新たな時代

への対応を余儀なくされています。

検定会を行う雪上では、指導者研修会における適切な情報伝達により、プライズテスト及び級別テストにおいては、大きな混乱もなく各地での検定会が開催されました。一方、ジュニアテストの検定内容変更では、制限滑降そのものには何ら問題は生じませんでした。検定会場の設営やその後の検定の流れなど、一通り余裕を持って開催できるまでに数回（数年）を要しました。

現場の状況として、ここに大田原スキークラブにおけるジュニアテストの一端をご紹介します。

ピーク時には100名を越えるジュニアを迎えてテス



トが行われ、大型バス3台でスキー場へ向かいました。テストに先立ち、スキー場の選定、検定バーンや斜面、さらには、ポールへのセッティングなど、テストを行うまでの環境作りが一苦勞でした。

ジュニアテストは、1級から6級までの区分がありますが、シーズン中10回（宿泊を含む）の活動により、初めてスキーに触れるジュニア（小中学生が対象）も4級レベルまでの伸びが期待できることから、1級から4級までのテストを行ってきました。

各級の受検内容は、ポール数により分けられていることから、各級とも同一地点からのスタートとし、4級から1級へと男女の区別なく検定を行いました。

4級については、ほぼ100%の合格率を確保し、3級についても同等の合格率ですが、2級、1級と上位級に進むにつれジュニアテストとは言え、さすがに合格者が限られてきます。

楽しいスキーを目標とした本クラブジュニア部の活動ですが、子供たちにとっては、シーズン最終回での活動でジュニアテストに臨み、合格証やバッジを手にもすることも大きな喜びや目標になっているようです。

この10年でスキー人口が激減している状況の中、ジュニアの登録者数も減少傾向にあります。必要最小限費用での活動を行っていますが、各家庭での出費に優先順位が付けられるのも、この経済情勢の中では無理もないことなのかもしれません。

「公認スキーバッジテスト」を含め、今後もスキースポーツを継続するために、一定のスキー人口の確保は必要不可欠です。

スキーブーム全盛期に触れた方々や、初めてスキーをに触れる子供たちに楽しさを伝えられる環境整備がこれからの重要な課題なのかもしれません。

「私をスキーに連れてって」を期待しながら、これからもスキーに携わり続けたいと思います。





学校教職員スノースポーツ講習会

学校体育スノースポーツ委員長 佐藤 史彦

参加者やスタッフの声をもとに、委員会の活動を振り返ってみることにしたい。

○学校教職員スノースポーツ講習会について 参加者 黒崎貞雄

このところ十年以上にわたり、この講習会に参加しています。この会には、大きく分けて、3つの魅力があります。第一は、講師陣が充実していることです。栃木県連のデモをはじめ一流の講師陣が目の前で華麗な見本を見せてくれますし、極めて熱心に教えて下さるのです。難しいと思っていた技術も、なるほどこういう意識で、この点に注意して滑ればよいのかと合点がいくと段々できるようになってしまう（と思える）から不思議です。第二の魅力は、アットホームな雰囲気です。事務局の方々の暖かな気持ちが参加者に伝わり、毎回懇親会が盛り上がります。初めて会った人ともいろんな話ができてしまうのが素敵です。第三の魅力は、検定を受けられることです。一日目の午前・午後、そして二日目の午前と3回の講習の中で、検定の内容や滑りのポイントを見本を交えて、教えてもらえるのです。私もこの会で、一級をいただきました。自己流にならぬよう、同好の士と毎年参加しています。この会が、今のような明るい雰囲気のまま、益々発展することを願って止みません。（宇都宮北高等学校勤務）

○教職員スノースポーツ講習会に参加して 参加者 菅野康三

「スタート!」。そんな声がかかった瞬間に頭の中は真っ白。しかし、周囲の「ガンバッ」に背中をぐいっと押され、斜面に体を放り投げる。これは、毎年二月に行われる「教職員スノースポーツ講習会」の一コマである。二日間にわたって行われる講習会では、講師の先生方の正確な「技術・理論」に基づく的確なアドバイスや模範演技により、参加者のほぼ全員が上達していく。上達するからおもしろい。しかも、校種や年齢、勤務先、もちろんスキー歴、こんな違いを超えて交流を深めながら、二日間で一つのチームとしてのまとまりも生まれてくる。このようなスポーツを教職員を通して児童・生徒に活動させるために、講習会の充実発展にご理解いただいた連盟および関係者の方々に感謝申し上げます。最後になりましたが、栃木県スキー連盟創立80周年おめでとうございます。今後の益々の発展を心より祈念しております。（真岡市教育委員会勤務）

○学校体育スノースポーツ委員会のスタッフとして携わって 指導者 藤田健司

平成9年度のシーズン自分は準指導員の受検に望んでいた。その年あたりからこの委員会の講習会に県連からブロック技術員が派遣されるようになり、一泊で講習を受け、翌日の検定では前走なども務めさせていただいた。おかげさまでその年に合格し、次の年からスタッフとして10年を超えた。年に一回の二日間の講習であるが、続けて参加してくれる受講生の方も多く、毎年上手くなって一級検定に合格し、指導員に挑戦する方も次々に出

ている。自分自身もブロック技術員の先生方と検定にあたるが増大、スキー技術と指導法の向上がなければと技術戦にもチャレンジし続けている。この講習会は県内の教職員が対象で我々のアドバイスを真剣に聞いて向上しようという熱意がとても印象的である。その熱意で県内の子供達にスキーの楽しさが少しでも広がってほしいと願う。(真岡中学校勤務)

○出会いの中で 事務局 大浦権治

今季、学校体育スノースポーツ委員会事務局を担当して早くも七年目が過ぎようとしています。この間、数多くの方々とスキーを通して出会えたことは私のスキー人生の一つの大きな宝となっております。受講される方々のスキーに対する前向きな姿勢、そして真剣な眼差しにふれる度に事務局として緊張の中にも充実した喜びを感じております。同じスキーを愛する者同志が集い、互いの技術の向上を目指す中で、わずか二日間の講習会ではありますが、不思議と何年も前からの仲間のような気がしてきます。実際、毎年この講習会に参加され、中には10年を超える方もいらっしゃいます。毎年、二月のこの講習会に向けて身体を鍛え、そして講習で得た技術をさらに磨いていくのだと、目を輝かせて話される受講生にお会いして、私自身のスキーを考えさせられると同時に、忘れかけていた「チャレンジ精神」がわきたって行くのを感じることもありました。また、受講生の中には一級に合格された後、さらに準指導員の検定に挑戦し、見事に合格された方もいらっしゃいます。

今後、この講習会で一人でも多くの方々のスキーへのニーズに応えるべく最大限、努力していきたいと考えております。また、栃木県スキー連盟創立80周年の栄えある歴史の中で寄稿させていただいたことに深く感謝するとともに、スキー連盟の発展のために微力ではありますが力を注いでいけたらと考えております。(足利第一中学校勤務)

この寄稿にもあるように、現在の活動は県内の教職員を対象に年一回、一泊二日の日程でスキー・スノーボードの実技講習とパッチテストを実施している。会場は、福島県のだいらスキー場、ホテルリゾートイン台鞍を利用して、昼夜フルに研修が実施されている。

ここ数年、参加者は減少しているが、一方、リピーターが増大、一層研修内容も充実し習熟度も高まっていると思われる。また、スキーでの準指・スノーボードでの1級受検者が増え合格者が出てきたこと、講習受講生やその指導者に管理職が出てきていること等は大変意味のあることである。講習会を企画運営するのは、学校体育スノースポーツ委員会であるが、この委員会をスタートさせたのは、芳賀スキー協会の根本圭造先生であった。初代委員長の根本先生は、二代目の足利の橋本欣也先生で現在の活動基盤ができた。勿論、県連の応援、担当理事・事務局・指導者の並々ならぬご尽力によるところも大きい。これからは、一つに、何としても講習会の参加者を増やすこと。二つに、今年度からスタートした新資格制度「ステージⅠ」の導入を目指して活動を展開していきたいと思う。



スノーボード技術選手権大会のあゆみ

教育副本部長 スノーボード委員会担当理事 斉藤伸幸

平成15年に理事会直轄としてスノーボード委員会が設立されました。以来、県内のボードを愛する人や他団体所属のボーダーに呼びかけをして組織の拡充と整備に努力を重ねて来ました。当初は組織の理解が得られず大変な苦勞をしてまいりましたが、除々にその中から組織としての自覚が目覚めて来ました。講習会等を中心として委員会を運営してきたが、会員からの更に技術的なもの含めて充実した委員会を創って行こうとの要望が強まり、準指導員の検定会の実施をスタートさせ、続いて技術選手権大会の開催へと発展をしてきました。

平成16年3月に、記念すべき第1回スノーボード技術選手権大会（以下、技術という）を、福島県だいくらスキー場にて開催した。35名の選手が参加をして華々しくスタートをし、その一歩を踏み出した。以後、順調に大会を開催する事が出来た。第2回の技選では24名の参加（内全日本技選へ男子4名、女子2名を派遣）。第3回大会は日程等の都合により、北関東の成績で全日本への派遣を決定した。（平成18年2月より北関東スノーボード技選が開催される。）第4回大会では37名（男子29名、女子8名）の参加者を数え、さらに茨城県との合同による開催で、大会を盛り上げる事が出来た。第5回大会は46名の参加。第6回大会は本県より43名、茨城県より23名、埼玉県より5名のエントリーを頂き計71名による画期的な大会となった。さらに、第7回大会は、県スキー連盟創立80周年記念大会として開催され、記念にふさわしい大会運営が出来た。（尚、大会会場は第3回大会を除き、すべてだいくらスキー場にて開催。）





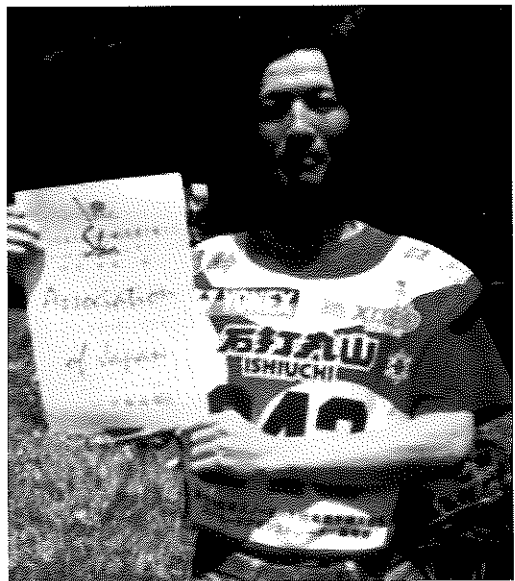
君島つぎみ選手

続いて北関東の技選についてである。(大会会場は全てホワイトワールド尾瀬岩鞍)平成18年より北関東の大会が開催され、本県から男子23名、女子4名がエントリーをしてすばらしい成績を収めた。アルペン男子1位、滝勝美(那須)、第2位、斉藤涉(宇都宮)、第3位、鈴木満春(宇都宮)、同じく女子では第1位を君島つぎみ(今市)、林照子(当時那須)が同点で分けあった。フリースタイルでは男子2位、君島雅弘(今市)、4位竹末智宏(今市)、女子では5位に武本由美(今市)が入り、本県のレベルの高さをアピール出来た。第2回大会では男子9名、女子4名の13名がエントリーをしてその活躍が大変目立ちすばらしいテクニックを発揮し、特にアルペンでは男

女共とも他県を圧倒した。第3回大会は男女9名がエントリーをして、カテゴリー別で大健闘をした。第4回大会は日程の関係で3名のみのエントリーとなりさびしい限りであった。第5回大会は男女27名の選手のエントリーで各カテゴリーで本県選手の健闘がありレベルの高さを再アピールする事が出来た。なを、本大会で全日本へ男女15名の派遣を決定した。

全日本スノーボード選手権大会

第1回全日本の技選が北海道のルスツスキー場で開催され、本県より8名の派遣をする。第2回大会は本県より8名のエントリーをし、アルペン女子で君島つぎみ(今市)が6位、林照子(当時那須)が10位と活躍をした。フリースタイル男子で竹末智宏(今市)が12位に、以下、アルペン男子で君島雅弘(今市)36位、今井盛夫(那須)37位と健闘をした。第3回大会は昨年同様8名(男子6名、女子2名)をエントリー。アルペン女子で君島つぎみが2位、林照子が4位とすばらしい結果を収めた。他ではアルペン男子で滝勝美が14位、フリーで竹末智宏が25位と本県のボードの



竹末智宏選手

第3章 専門部の歩み

レベルの高さを全国にアピールした。第4回大会は会場を八方尾根スキー場に移し本県より10名の選手をエントリーし、うち4名が決勝に進出し、特に、フリースタイル男子で竹末智宏が総合7位とシングルの順位に入り、更に総合滑降の種目で1位の得点をたたき出し本県初の快挙をなし遂げた事は特筆すべきである。第5回大会からは石打丸山スキー場で開催。本県より10名がエントリー。5名が決勝に進出したがコンディションの調整が出来ず、アルペン男子で君島雅弘の14位が最高と振るわなかった。第6回大会、竹末智宏が大活躍をする。本県より10名（男子6名、女子4名）が出場し7名が決勝に進出したが竹末以外はもう一歩であった。

第7回大会は今までより5名を増えて15名の選手をエントリーする。内6名が決勝進出をする。中でも竹末智宏が7位と昨年に続きシングル入を果し、更に、デモンストレーターの選考会にも出場したが、残念ながらデモ認定にはならなかった。しかし、ここ数年の中で竹末智宏の活躍は本県ボード界にとってもすばらしい事であり、今後を期待をしたい。今後は選手のみなさんの更なる活躍を祈りボードの限りない発展を願う。



変わりゆくスキー場とパトロール

S A Jパトロール技術員 新井 和 夫

私はパトロールを始めて28年になります。その間スキー場環境は大きく変化してきました。パトロールを始めた当時は第2次スキーブームでした。スキー場は各地に高速リフト（自動循環式特殊索道）やゴンドラリフト（自動循環式普通索道）ができたことで大量輸送が可能になった。また、安定した積雪確保のため人口降雪機の導入が進み、最新の圧雪車を駆使したコース整備でスキーの高速化が進むにつれてスキー傷害も増えてきました。また我がハンターマウンテン塩原ができた頃は、映画「私をスキーに連れてって」やバブル全盛期で、各地に新設のスキー場ができてスキー人口もピークに達していくことに伴い、スキー傷害も更に増加しました。特に膝（捻挫や靭帯損傷）の傷害が多く、全体の3割程度ありました。90年代後半バブルも弾けてスキー人口も減少傾向になったあたりからスノーボードがブームとなり、パトロールは新たな問題に直面して行く事になってきたのです。それはスノーボードがスキーの約3倍傷害が発生する事です。当時のハンターでは1日多くても30件のけが人でしたが、スノーボードを受け入れることにより、1日100件を超えた時もあり、シーズンの受傷者が1000件に達した年もあったのです。スノーボードの特徴的な事は、一本のボードに両足を固定しているために大半は上肢の傷害です。中でもグレンデ状況がアイスバーンの際、転倒時に手首の骨折や頭部損傷が多く発生するのです。また、時同じくしてカービングスキーの普及発展がありスキーがずれにくくなり、より高速化が進んだ結果、コースアウトや衝突事故で生命に及ぼす重大事故につながるケースも増えてきました。現在は一般プレイヤーもヘルメット着用が年々増えています。以上の事からスキー場や用具、プレイスタイルの変化により傷害の種類や傾向も変わってきました。

パトロールはけが人の救助も重要ですが、1番重要で難しい事は事故防止です。一つはソフト面で、これは現状のグレンデを見て危険予知能力を働かせて危険箇所に安全対策（ネットやマット）を施す方法です。また場内放送や看板なども使用して啓発活動を行います。次にハード面ではグレンデの危険箇所自体の改善策で、例えば上から見て左に傾いたグレンデの安全対策として、左側にネットを設置してコースアウト防止策を行っても、プレイヤーは必然的に左側に寄ってしまい、コースアウトや衝突事故が発生してしまう状況は変わらない。この構造上の問題は地形を造成することにより改善できる。ただパトロールが日々努力をしても無事故は皆無に等しい。これはプレイヤー自身の技術とマナーに関係するもので、事故防止はパトロールの永遠のテーマだといえるでしょう。

安全対策部10年を振り返って



新井理事



高橋委員長

教育本部理事 安全対策部長 新井和夫
教育本部 安全対策委員長 高橋康範
栃木県スキー連盟創立80周年おめでとうございます。80周年の節目に栃木県スキー連盟の事業・活動に参加できたことをまず感謝申し上げます。諸先輩方の御指導もいただきながら、今までの活動成果から

後退せぬように、出来る限りの努力をさせていただきました。関係各位には大変感謝しております。

安全対策本部10年を振り返りまして、思い出に残る事業活動や出来事を3つほど挙げさせていただきます。

- ①栃木県内スキー場傷害調査データの報告
- ②S A J公認パトロールの養成
- ③S A J公認パトロール養成講習会への茨城スキー連盟安全対策本部の協力

①栃木県内スキー場傷害調査データの報告

栃木県内スキー場の傷害調査データを収集分析して、分かり易くグラフ化し発表しよう。ケガ人を減らすために活用していこう。現在の安全対策本部部長でもあります新井和夫の提案のもとに始まりました。栃木県内各スキー場のパトロール隊様の御協力により、シーズンごとの総受傷者データを12項目に細分化しデータ化しました。

- | | |
|------------|-----------|
| ①シーズン総受傷者数 | ⑦受傷時の天候 |
| ②受傷時の使用用具 | ⑧受傷の原因 |
| ③受傷者の年齢 | ⑨ケガの種類 |
| ④受傷者の性別 | ⑩ケガの部位 |
| ⑤受傷者の技能 | ⑪受傷者の搬送方法 |
| ⑥受傷時の時間 | ⑫救急車の要請回数 |

データ化するにあたり、各スキー場パトロール隊様にはデータの再集計など、大変な御手間を掛けさせていただきましたが、御協力いただきありがとうございました。各スキー場様から集まりましたデータは、安全対策部においてグラフ化し、栃木県スキー連盟スキー年鑑に毎年掲載する事が出来るようになりました。現在では過去5年との比較なども出来るようになり、より一層傷害発生の予防に役立っております。今後さらなる改善を図りながら、より活用しやすいデータを発表していきたいと考えております。

② S A J 公認パトロールの養成

S A J 公認パトロールの養成に関しましては、全国的にパトロール不足と言われている中、各所属団体様からの御声掛けなど多大なる御協力の元に、ほぼ毎年養成講習会を実施する事ができています。参加者は、実際にパトロール業務に従事している方、各所属クラブの安全対策担当の方、ケガをした経験がありパトロールに興味のある方など多様なニーズの元に集まれた方々で、スキーの技術レベルも高く、安全意識も高いために、毎年スムーズに養成講習会も実施できております。養成講習会会場におきましては、ハンターマウンテン塩原パトロール隊様に御協力いただき、アキヤボート訓練の場所の確保、時には仮患者としての御協力、資材の借用と大変感謝しております。

S A J 公認パトロールに合格した方々はその後、実際に現場でパトロール活動に従事したり、各クラブやスキースクール、所属する団体内で安全対策の責務をになったりしています。今後も安全に関する意識向上の啓蒙活動、ケガ人発見時の迅速で的確な対応に御協力願いたいと思います。

③ S A J 公認パトロール養成講習会への茨城県スキー連盟安全対策部の協力

2008年度からは同じ北関東地区の茨城県スキー連盟所属の受検生の受け入れが始まりました。茨城県スキー連盟様からは安全対策部の方々に協力していただき、筆記試験の内容、ロープ三角巾のコツ、アキヤ搬送の仮患者やスキー技術の見本と色々な面で情報の共有とアドバイスをいただき、より充実した養成講習会が開催できるようになりました。

最後になりますが、現場で傷害発生予防の活動をしている現役パトロール隊の皆さま、そして安全管理に関わるすべての関係者の方々に感謝申し上げますと共に、今後もケガ人を1人でも減らしスノースポーツの発展に御協力をいただければと御願い申し上げます。



スキースクールの10年

教育副本部長 スキースクール委員会 担当理事 斉藤伸幸

本県にはスキー連盟の外郭団体としてスキースクール協議会がある。また、直轄委員会としてスキースクール委員会が組織されているが、実質的な活動は実施されていないのが現況である。最盛期にはSAJの公認校が6校を数え、それぞれのスクールが独自のカリキュラムを持ち個性あるレッスンを展開し、人気を呼んでいた。入校者数はそこそこあり、その中からバッチテストの受検や、更には次の目標として準指導員や指導員を目指してスクールを積極的に活用した時代もあり、当時を振り返るとなつかしく感じる。当然、各スクールも確立した指導体制のもとでいかなるスキーヤーにも対応出来るように、スタッフの育成、強化に連日研修を重ねて来た。ところが、スキー界を取り巻く環境は大きく、しかも大変な速度で様変りをしてしまった。特にここ20年の間には想像を越えるものがあつた。平成10年位までは用具等のマテリアルの激的な変化による技術の進化があり、従来技術の取得に費した時間を考えた時にまさに画期的なものであつた。その中で技術は急速に進化をした。しかし、その後は経済の急激な落ちこみによるスポーツ界、レジャー産業界への関心度が変化をし、スポーツ等の離れが進んだ。特に、ウィンタースポーツにおいてはその速度が急激に訪れて来た。当然スキースクールへの波も押し寄せ、一般レッスンの入校者数はもちろん、バッチテストの受検者の減少等、スクールとしても大変な局面に遭遇してしまつた。各スクールとも、どのように対応をするのか早急にその対策を考慮しなければならない事態になつた。当然、スキースクールのみの影響だけでなく、スキー場全般にもそのしわ寄せが直撃をし、入込み人数の減少等により厳しい経営となり、経営の根本的な見直しを求められその対策に大変な努力をしなければならないようになった。この状態は本県のスキー場も含めて、全国的な傾向であり、廃業や営業の一時中止をしなければならないスキー場で相次いだ。

常設のスキースクールは地元との密着した活動の中で絶体的な信頼を得て来た。スキー界の最先端の活動組織としての役割は十分に果し、スキーヤーと身近な接点のもてる唯一の組織である。まさに、スキー界にとってはなくてはならないものである。

一般レッスンにおける入校者数の減少にあたり、県内各スクールとも活動の戦略の見直しを迫られ、団体レッスン（スキー修学旅行、体験研修、記念イベント等）に積極的に取り組み、その活路を見出したのが現状である。団体レッスンのメリッ



教師研修（指導者研修）開会式

トは日程やカリキュラムが組みやすく、スタッフの個々の能力を充分に生かしてより楽しい指導が展開される事であるが、デメリットとして、日程が主に平日が中心となるため、

スタッフの確保が困難であり、さらに統一した指導が出来るか若干の不安が残る事も考えられる。いずれにしてもスキヤーの減少とスクールに対するニーズの件で各スキースクールとも、今後ますます経営に頭を悩ます事になるのではないかとと思われる。スキー場とのより一層の連携をとり一体となって、スノースポーツ界（スノーボード、モーグル等）をどう導いていくかがこれからの大きな課題である。快適的な環境の中で指導が展開され、満足を与えられるようなシステム作りとスタッフの育成に早急に取り組んで活動する事が、これからのスキースクールに求められる。

今後のスキースクールの発展を大いに期待をする。



教師研修の一コマ

日光湯元スキー学校の10年

日光湯元スキー学校 岡村 昭夫

3月末日を以って、2010年度のスクールの営業も無事終了し、一息ついていた4月のある日。久しぶりに会った小林校長に、「県連創立80周年記念誌の、寄稿依頼が幾つか来ている。その中の、スキー学校の10年と言うのを担当して書いてくれ。」と言われる。ペンを持ってはみたものの、出てくるのは名文ではなく、独り言。困った、何を書いたら良いのかと悩みながら、閉校したばかりのスクールを思い返す。浮かんで来るのは、いつもの光景。

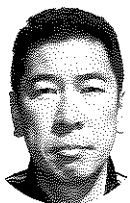
まだ暖まっていない車に乗り込み、山へと向かう。着くと直ちに、予定と配置の確認、問題が無ければ暫し仲間と雑談に花が咲く。それもスクールのインフォメーションが流れ始めると終了。盛り上がりて来た話を後にして、それぞれ適所にと就いて行く。穏やかな声は、慌ただしい一日の始まりを告げている事を、皆心得ている。何時もの、変わらない光景だ。10年の間には、役職やスタッフの入れ替わり等スクール内に、多少の変化はあった。それでも、他愛のない、この光景は繰り返され、そうした中で仲間達と冬を過ごし、共に越えて来た。だが、外に目を向けて見ると、それとは逆に、状況は大きく変わって来ていると思う。閉鎖に追い込まれるスキー場が相次ぎ、スキヤーや、ボーダーの数も目に見えて減少したと感じる。当校では、若者の入校者や検定受検者が減り、それに代わってエイジング層の入校や検定受検が目につく。この10年の売り上げ、入校者を数字だけで見れば横這いか多少の増加を見せてはいるが、単純に喜べる事ではない。なぜなら、それはスキー修学旅行の影



響が大きく関係しているからで、スクールやスキー場、奥日光と言う地域を目的とした一般客が増加した訳では無いからだ。団体客は、諸刃の剣でもある。又、気象の変化も気になる。当たり前前の冬は、あとどれくらい続くのだろうか、時折考える。明るい要素は少なく、まだバブル景気やスキーブームの名残のあった10年前とは明らかに違う。それを嘆いた所で何も変わらず、「どうすれば良い。」と自問すると問題は難題へと変わり、本題から離れて行く。本題を思い出してみる。スキー学校の10年だった、又、更に悩む。

スキー学校の10年……それは、過ぎた10年で言えば、変化という荒波に揉まれ漂っていた時、これからの10年を考えれば、荒波が大波へと変わるのを乗り越えられるか試される時、組織としての真価を問われる時、と言えるのかもしれない。だとするなら、知恵と力を結集し向かっていかねば、転覆くらいはしたとしても沈没はまずい。来シーズンは、気を引き締めて臨まねば、等と妄想ともつかぬ想像が頭の中で膨らんで行き、「大変だ、このままでは脳みそが沈没してしまう」と思い、窓の外に目をやった。春の訪れの遅い、奥日光の山々がある。

スキー学校の10年……あれこれ考えてはみたけれど、結局いつもの光景を繰り返して過ごして行くのかなと想像し、又、そうであるなら良いのになと、まだ雪の残る山を見ながら思った。



栃木県スキー連盟80周年を迎えるにあたって

エーデルワイススキースクール 校長 山口 昌利

栃木県スキー連盟創立80周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

さて、過去10年間を振り返って見ますと、地球温暖化（暖冬）の影響もあり、降雪量が年々少なくなってきています。今やスキー場では人工降雪機を稼働しなければ営業ができない状況にまでなっています。当スクールのあるエーデルワイススキーリゾートは人工降雪機をフル稼働し、毎年万全のコースコンディションを整えています。また、コース的にも緩やかで、子どもたちが安心して滑れるスキー場でもあり、家族連れに大変人気があります。

しかしながら社会的な不況やレジャーの多様化もあり、お客様の来場人数は年々減少しているのも否めない事実で、特に近年では若年層スキーヤーの減少が著しいものとなっています。なんとかその現象に歯止めをかけなくてはなりません。そのためにスキー場として、スキースクールとして何ができるのかをもう一度考え、見直しをしていく必要があると思います。

エーデルワイススキー場がファミリー主体であるため、スクールのお客様はK I D Sや

ジュニアのクラスが大半で、土曜、日曜、祭日は特に家族連れでにぎわっています。当スキースクールは『安全・安心』をモットーにスキースクールを運営しており、大人の方ももちろんですが、子どもたちにスキーのマナーやスキーの楽しさを教え、何よりどうしたら『スキーを継続してもらえるのか?』を考え、スタッフ一丸となって取り組んでいます。その取り組みの成果もあり、今年度(2010年)にはスキーマイト(スクールのシーズン会員)にKIDS会員が増員し、初心者KIDSからレース志向の上級者KIDSまで幅広いレッスンを行いました。ある初心者のKIDS会員は今シーズン15回以上スクールに通い、シーズンの終わりにはスキー場の全コースを制覇するまで上達し、『また来年もお願いします』という言葉をいただき、私たちにとって何よりもありがたく、励みとなりました。

最近では学校行事の一環としてスキー教室が増加し、県内外の小・中学生の団体がスキーを体験しています。その大半は初心者ですが、1日のレッスンで滑れるようになり、『またスキーがしたい』と言って再びスキー場に足を運んでくれる子もいます。この行事はスキー場・スクール、何より子供たちにとって大変良いことと実感しており、更なる活動の拡大を進めているところです。

私たちスキースクールはそんな小さなことしかできませんが、末端である一般スキーヤーと接する中で、スキー人口の底辺拡大に向け、今後ともより一層の努力をしていきたいと考えています。



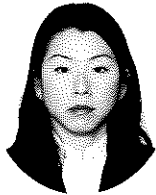
【KIDS・ジュニアのレッスン風景】

マウントジーンズスキースクールの10年

マウントジーンズスキースクール校長 渡辺陽一
マウントジーンズスキースクール副主任 志田博

栃木県スキー連盟80周年おめでとうございます。前役員の方々、会長をはじめとする現役員の方々の力で、ここまでこれたものと感じます。そしてこれからも、栃木県のスキー界の発展を目差して、がんばっていただきたいと思います。栃木県には、4つのスキースクールがあり、研修会等で、ガッチリスクラムを組み、お互い切磋琢磨しながら、また、交流を深め、連絡協議会を、運営しております。我々、マウントジーンズスキースクールも、県連の方々のお世話になりながら、16年がたちました。多くのインストラクター、スキー場スタッフと共に、スキーヤーのニーズに答えるべく、努力しております。

当スクールのモットーは、「キッズから、シニアのすべてのお客様に、生涯スポーツの一つとして、楽しさを伝え、いつまでもスキー場に来ていただき、楽しく遊んでいただきたい」と云う事です。そのために、我々はいろんな知識を持ち、努力をおしまず、サポート出来ればと考えております。今後も、県連からの御指導をいただきながら、スキー連盟の一員として、努力していきたいと思ひます。「アイ・ラブ・スノー」



スタートライン

ハンターマウンテンスノーアカデミー 大塚昌代
栃木県スキー連盟が創立80周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

ハンターマウンテンスノーアカデミーは、SAJ・SIA・JSBAの3つの団体がひとつのスクールとして活動しています。団体の壁を作ることなく、スタッフが力を合わせ、スキー・スノーボードの普及に日々励んでいます。2005年に設立したハンターマウンテンスノーアカデミー。全てが0からのスタートでした。各種団体の公認をとるところから始まり、インストラクターの募集、レッスン内容の決定、ウェア・備品の準備、スタッフ研修会の実施等々、、、。ひたすら前だけを見て突き進み、5年が経ちました。



まだまだ、駆け出しのスクールです。県連の皆様、近隣スキー学校の皆様にはご迷惑を

おかけしてばかりですが、今後とも御指導・ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

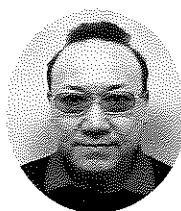
小中学生育成委員会10年



星理事



南須原理事



岡野委員長

教育本部理事 小中学生育成委員会 担当理事 星 伸也
教育本部理事 チルドレン副委員長 南須原 武男
小中学生育成委員長 岡野 守

育成委員会は平成17年7月2日より（評議委員会了承の後）活動しており、実質5年間の活動であり、10年間となると平成12年まで遡らなければならない。育成委員会の前身はクロスカントリースキー普及委員会であり、この内規は育成委員会発足の翌年を持って廃止となっている。

10数年前前からスキー競技人口は減ってきており、特にクロスカントリースキー人口の減は顕著であり、将来を担う小中学生の競技者は平成22年度の栃木県では皆無に等しいのではないだろうか。15年程前から現在の状況は危惧され、競技人口（小中学生）の拡大を目的として普及委員会が発足し、さまざまな活動を展開してきた。

当時は、小学生でも、5km、3kmと非常に長い距離で、コースもワンウェイの競技会しかなく、これが、競技者（選手）減の一要因であるとの指摘がなされた。普及委員会では、1kmの記録会や講習会をメインとして、誰でもが気楽に楽しくクロスカントリースキーに親しめるように、また、クロスカントリースキー技能の向上を目的としてバッチテストを実施してきました。（別記の新聞記事参照）

5年ほど前からは、アルペンスキージュニア選手も参加者が年々減少との意見をうけ、小中学生育成委員会と改称、各地のスポーツ少年団とコラボしてアルペンスキーの普及へも乗り出し、記録会や、バッチテストを通じてスキーの楽しさ素晴らしさの啓発を図っている。

普及委員会では当時（平成15年）より、選手等の育成に取り組む小学校、中学校を育成指定校として助成金交付事業を実施してきている。しかしながら、少子化現象の波は、スキーが盛んな山間地の学校にもおよび、これら多くの選手を輩出した学校の廃校となっている。

車社会万能の現在、育成委員会は、雪なし地域の子供達も対象に取り組むべく、誰もが

楽しく、気軽に参加できる講習会（バッチテスト）や記録会（大会）等を開催し、県内外を問わずスキー愛好者を育成すべく活動を展開している。

過去の新聞記事より（下野新聞）



【那須塩原】スキーを上手にこなす上野原小（二十五）は昨日、一面雪に覆われた校庭でクロスカントリー（クロカン）スキー教室を開いた。

今回は冬季、体育の授業でクロカンスキーを行っている。体験した山林には保護者が整備した自前レンデもある。

講習は昨季に続き二回目。地元出身で全日本スキー連盟クロカンスキー公認指導員の岡久津永一さんと尾仲也さんが講師を務めた。三年生以上の全員が参加した。

雪あるんだもん 校庭がゲレンデ

上野原小でスキー教室 那須塩原

校長は教員がフリースキールを履きながら中継するが、講師「自前が大抵の『も』の足踏の指を履きながら、なやな指導を受けながら、子どもたちは校長のステージニングや自前レンデの滑降を楽しんだ。

同校では一年からスキーで、格好の滑る児童も、教員の方がたは、栗原町立区から山村静子氏、四年生、吉田徳治君は「スキーは楽しい。自分では上手になった。楽しかった。」

H16.1.30


クロカンスキーのテスト出場者募る

○県スキー連盟は2月28日に「クロスカントリースキー技能講習及びバッチテスト」を行う。2月は24、25日の第一回に続くもので、指導者、選手育成と競技の普及を目的し、今年から公募形式にした。

○テストは1級から3級までで、日光光徳クロスカントリーコースで行われる。午前10時から講習と種別検定、午後

00円、2級1500円（小中学生1000円）、3級1000円（同700円）。公認料およびバッチ代は別途。

○希望者は、はがきで所属氏名、生年月日、住所、電話番号を明記し、〒309-0275の、西那須野町西三馬1-154の19、尾仲也さん方へ2月20日までに申し込む。問い合わせは、きぬがわ高原CCCクラブハウスで0288760100へ。




【那須】西那須野センターで恒例の夏合宿キースポーツ少年団（を子）を引いた五十六（丸来紀男団長）は、こどもも四十二人が、町野外活動で参加した。

スポーツ少年団が夏合宿

自然と触れ合い 団結学ぶ

初日は溪流サワガニ採捕り、夕食はカレー。その後、花火とキャンプファイヤーを行い、時間が早かったので早稲田に都賀の山を歩きました。

二日目は朝から晴れ、風も天気と高橋、笑顔で元気な声でまじりました。

夏合宿は自然との触れ合いを通して、新入団員の性格の把握、子どもたちの団結を促すために行っています。子どもたちは懇話から離れ、いろいろなことを学び、一回りの大きくなった姿でした。

H19.9.6

みんなで参加しませんか.....

**クロカンスキー教室と
SAJ公認バッチテストへ**

栃木県スキー連盟では塩原小学校P.T.Aの後援を得て、小・中学生がクロスカントリースキーの楽しさと滑り方の基本を学んでいただくために、クロカンスキー教室とバッチテストを開催することになりました。つきましては、お友達といらっしゃるに気軽に参加されまようご案内いたします。
主催 栃木県スキー連盟
後援 塩原小学校P.T.A

記

1. 日時 平成18年2月25日(土) 10:00~15:00
2. 会場 那須塩原市 旧上塩原小学校特クラウド
特設クロスカントリーコース

3. 日程 ※積雪の状況による
- (1) 10:00
- (2) 10:30
- (3) 12:00
- (4) 13:00
4. 本部 那須塩原市
(問合せ)
5. 検定員 公認検定員
6. 検定料 小・中学生
1 級
2 級
3 級

**クロスカントリースキーリーグ
2010 in 日光アストリアホテル**

光徳クロスカントリースキー場(ポイント制)

主催: 栃木県スキー連盟・日光アストリアホテル
協力: 全日本スキー連盟公認クロスカントリースキー指導員

- 第1回大会(第1戦) 1月30日(土) 午後1時30分スタート
- 第2回大会(第2戦) 2月6日(土) 午後1時30分スタート
- 第3回大会(決勝戦) 2月20日(土) 午後1時30分スタート

7. 公認料及びバッチテスト

1. アルペンスキービギナー技能講習・記録会
主催 栃木県スキー連盟
主管 小中学生育成委員会

8. その他

1. 期 日 ①平成22年 1月16日(土)
②平成22年 2月 7日(日)又は11日(祝)
2. 会場 ハンターマウンテン塩原(TEL0287-32-4583)
3. 集合 ①②ともに午前9時00分 スキー学校前にて受付
4. 現地総務 委員会担当理事・委員
5. 講師 全日本スキー連盟ブロック技術員(県連教育本部)
6. 参加資格 アルペンスキー志向の小・中学生
但し小学生は3学年以上
7. 講習内容 (午前)技能講習(簡単なポール使用の練習を含む)
(午後)手動計による記録会
※参加保護者の受講可(当日申込み受付)
8. 参加料 1,000円(料金は現地に納入のこと)
9. 参加申込 下記申込書に必要事項を記入の上、県連あて郵送又はFAXして
下さい。
県連盟住所 〒320-0027
宇都宮市塚田1-3-15チロルビル3F
FAX028-627-6460
10. 締切日 ①⇒1月13日迄 ②⇒2月 3日迄
11. その他 記録会の上位者には、県連盟の記録証を授与致します。
リフト券、スキー用具は各自用意して下さい。

アルペンスキービギナー技能講習・記録会参加申込書



小さなXCスキー競技会

教育本部理事 広報委員長 南須原 武 男

栃木県スキー連盟80周年おめでとうございます。70周年からの歴史をひも解きますと、奥日光XCスキー大会に触れてみなければなりませんと思います。88年に第1回大会が東京中日新聞、東武鉄道、東武興業主催により03年の16回大会まで開催されました。競技、ハイキングの種目がありそれぞれ、200名、1500名前後の参加者があったと思います。3回目大会から5km公認コースとなり、大会が盛り上がりました。03年の大会を最後にして、奥日光XCスキー大会が終わりました。その間コース作りにスノーモービルで早朝4:00ころから15kmのハイキングコースを整備、天気の変化に伴う開催の有無、主催者、スタッフの一員として気をもんだ事など懐かしく思い出されます。昨今の社会事情によりなくなって7年が経ちましたが、非常に寂しい思いがありました。そんな中、星理事担当で行っていた、ジュニアの育成を目標としての、きぬがわ高原XCオーバルレース兼パッチテストを利便性の良い光徳にて開催可能か



どうか、本部長の指示のもと、現場の打ち合わせを行い、アストリアホテル、支配人の協力を得まして奥日光光徳にて開催する事ができました。(09年、10年)年3回を行いました。参加者は数名から10数名と小さな競技会とパッチテスト会ですが、栃木県スキー連盟の行事としては唯一の行事が出来ました。

話は、変わりますが、スポーツに必要な体力の「5S」という事があります。1、筋力、Strong 2、速さ、Speed 3、持久性、Stamina 4、巧緻性、Skill、5、精神力、Spirit、です。

XCスキーにつきましては、対比として、私たちが楽しんでいる、アルペンスキーがあります。重力を利用して行うアルペンスキーは体力の無い人も楽にスキーをすることが可能です。この事については、アルペ



ンスキーを否定するものではありません。XCスキーは、前述のことを思いますと、トレーニング志向、自然鑑賞志向、等幅広く多様なニーズに対応可能なことと思います。背景



的には、XCスキーを楽しんでいるひとは、沢山います。どんな小さな競技会でもゼッケンを付けてスタートラインに立ちますと真剣になり緊張します。この気分が好きです。日光地区の唯一、小さな「奥日光XCスキーリーグ」I、LOVU、XC、SKI大きく育てましょう。